

30550

教科書文庫

3
290
51-1886
2003 02839

(21)

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

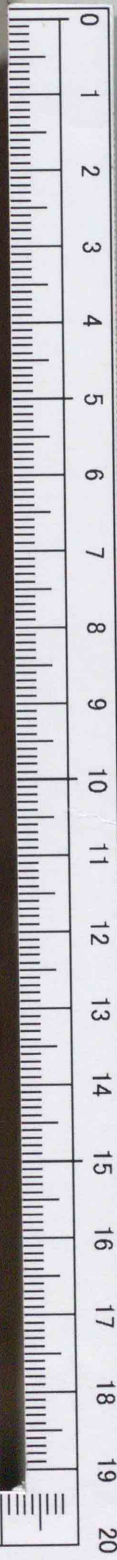
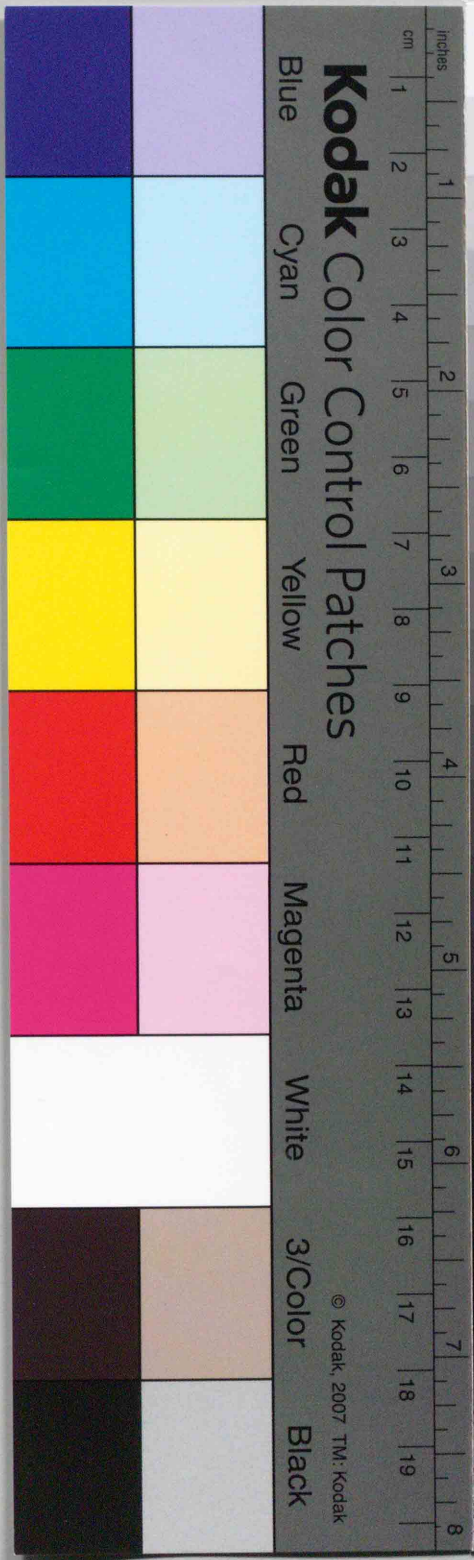


© Kodak, 2007 TM: Kodak

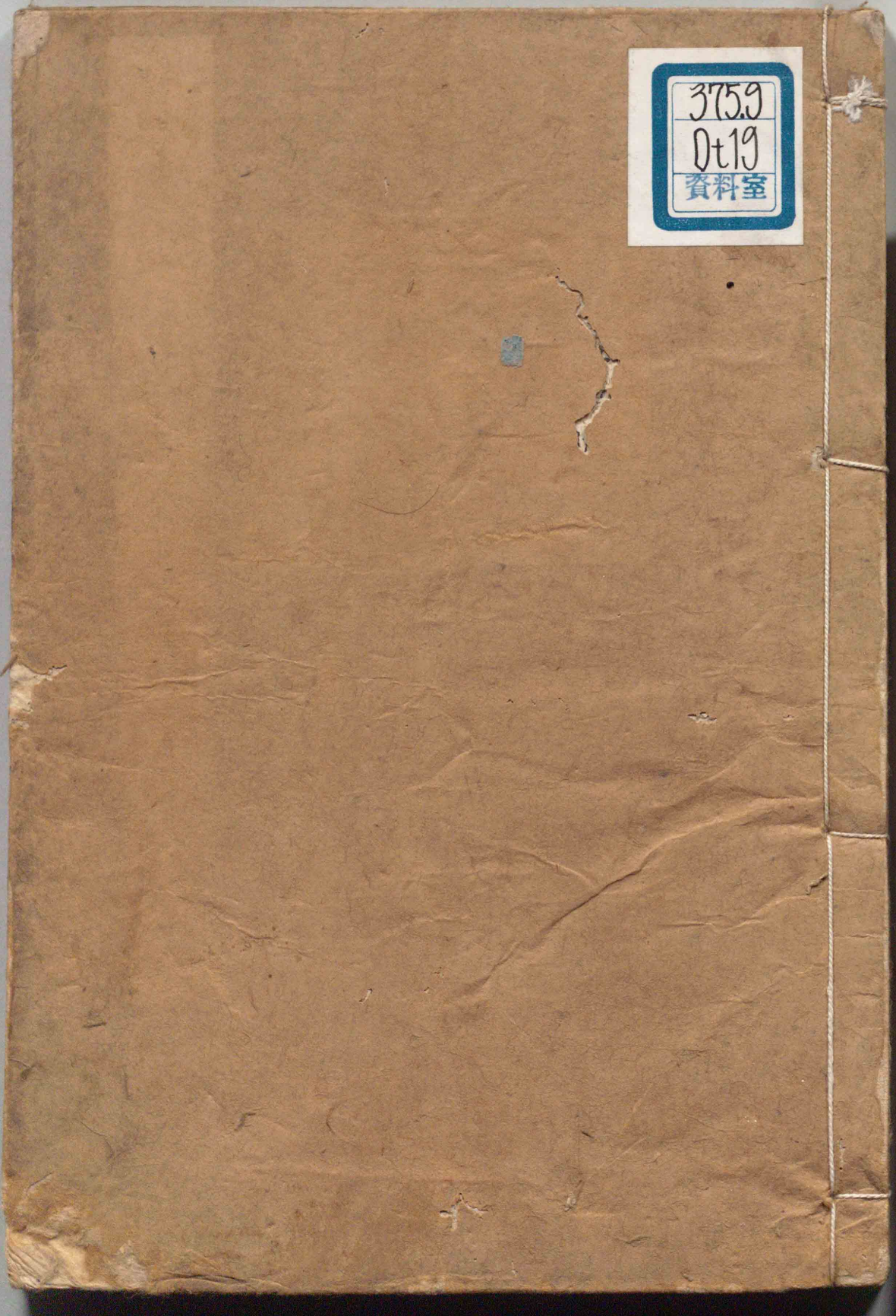
Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



375.9  
Dt19  
資料室





中央圖書館

室 轉 號

資 料 室

375.9  
0t19

廣東大學圖書館





資料室

廣島大學圖書印

廣島大學 教 30392 書

廣島大學圖書印

改正日本地誌要略

一 期例言三則 日本地誌要略 第一版 明治八年十月ニアリ 全部五卷トス 同  
 十一年三月第一第二ノ兩卷ヲ増訂シテ三卷トシ 全部  
 六卷ヲ以テ之ヲ再版ス 當時數縣ノ小學教課書ニ採用  
 セラレテ其發兌ノ部數ハ前後殆五萬ノ多キニ至レリ  
 一 同十五年十一月又全部ニ改正ヲ加ヘテ第三版ヲ開ク  
 此書是ナリ 本年七月文部省更ニ師範學校教課書ヲ選  
 定サレ 此書復其課目中ニ加ヘラレタルハ實ニ余ノ光  
 榮ト云フベシ 其方今文化日ニ加リ 工業年ニ進ム故ニ  
 道路ノ改修及ビ原野ノ開墾ヨリ 鑛道運河海港等此書

改正日本地誌要略 第一版 第一卷 第一頁



ノ載スル所既ニ其實地ト相合ハザルモノ少カラザル  
 ベシ然レ氏必其新事業ヲ記セントセバ毎月毎歳ノ改  
 削ヲ加フルモ遂ニ其實事ヲ舉グルト能ハザラン覽者  
 之ヲ諒セヨ

一此書ノ首ニ東西兩京ヲ別記スルハ第二版ヨリ此書體  
 ヲ創ム而テ去歳政府大改革ノ後ハ官省其他各般ノ名  
 稱位置モ亦從ヒテ廢置變革アリ今一々之ヲ改ムルニ  
 由ナシ東京ノ如キハ殊ニ多シ覽者其異同ヲ咎ムルト  
 勿レ

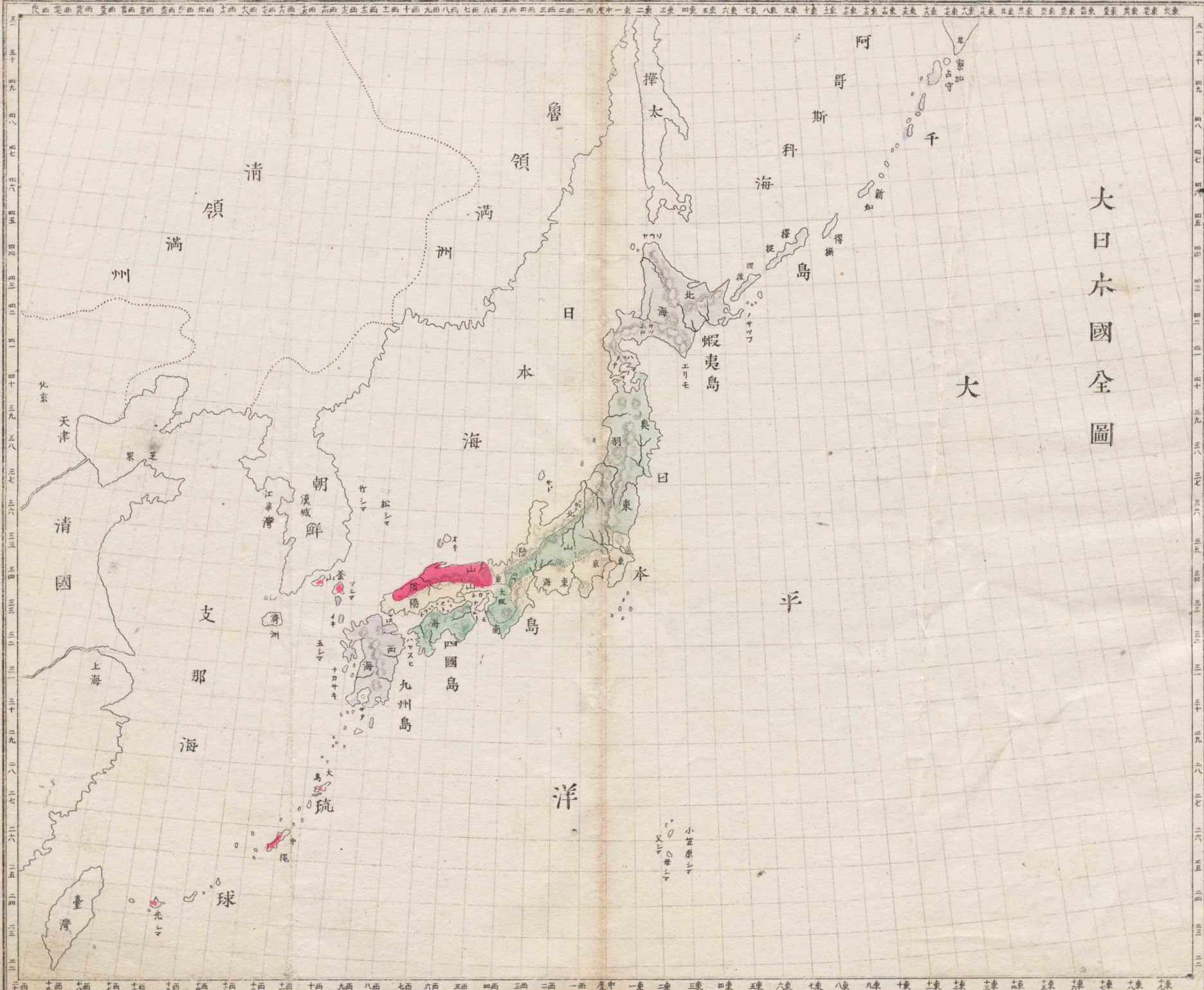
一明治五年九月東京師範學校始テ建ツ其教課書トシテ  
 開版セラレシ日本地誌略ハ余ガ囑託ヲ受ケテ之ヲ草

セシ者ナリ其後文部省ニ於テ訂正出版然レ氏引用ノ  
 書ニ乏シカリシカバ考據甚艱ニ原稿ニ基ケリ然レ氏引用ノ  
 ク編ヲナシ又其後日本地誌提要方ニ成ル八年一月上能  
 行ハ尚後數年ニ其全書ヲ一覽スルヲ得テ此地誌  
 要略ヲ撰セシナリ爾時國郡ノ沿革ヲ述ベテ其後ニ附  
 載セントセシガ訂正尚其功ヲ畢ヘザレバ空シク之ヲ  
 筐底ニ藏スルト十餘年ナリキ抑モ古今ノ開化ヲ通覽  
 セントスルハ意ヲ土地境域ノ遷轉ニ注ガズバアルベ  
 カラズ我國二千五百年間其國土ノ沿革豈ニ之ヲ等閑  
 ニ付ヌベケシヤ近日本書第四版ノ舉ヲ待チ國郡志要  
 ヲ刊行シテ之ヲ世ニ示サントス





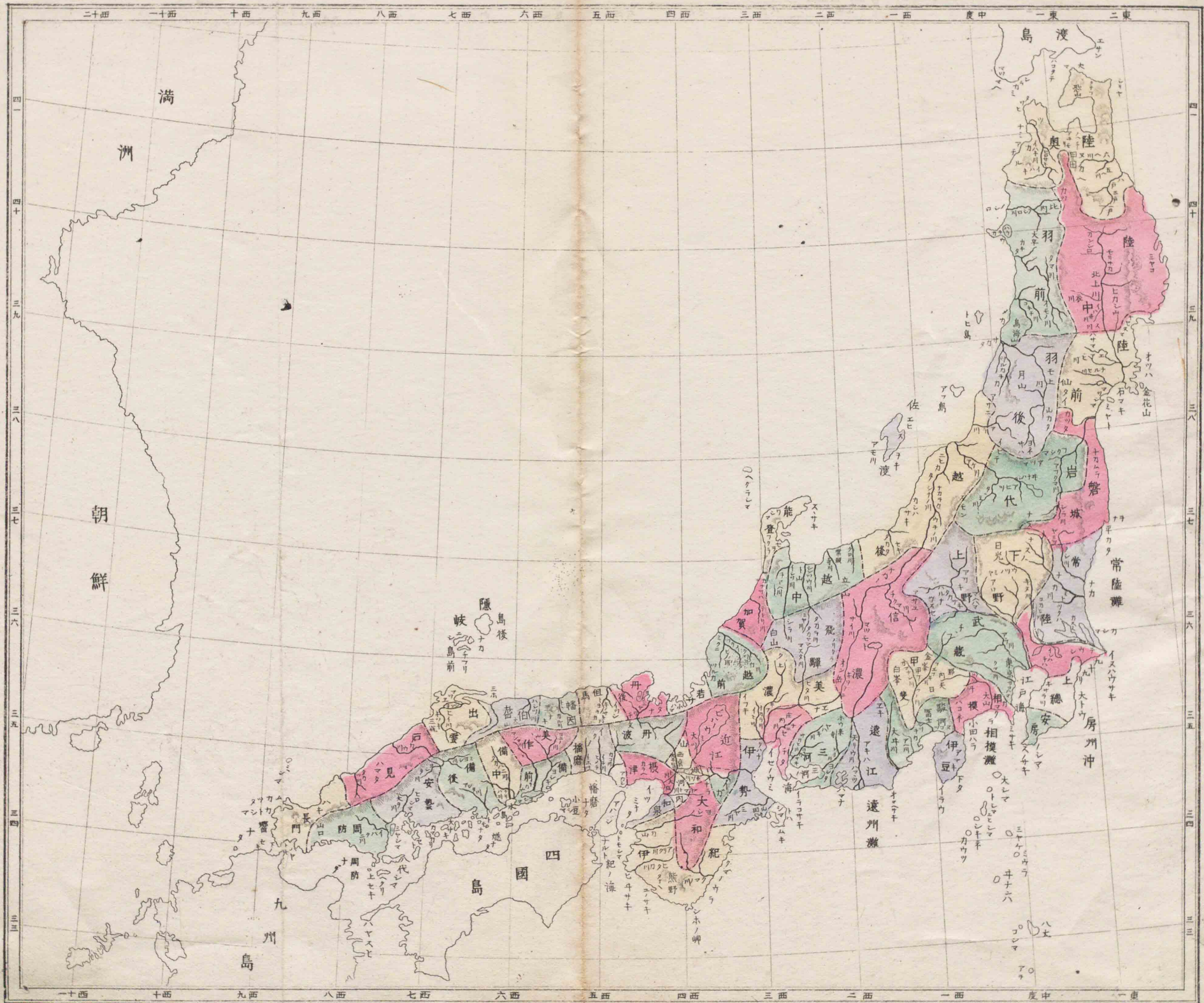




大日本國全圖

昔之文... 其... 甚... 百... 對... 之... 數... 二... 指...  
 昔之文... 其... 甚... 百... 對... 之... 數... 二... 指...  
 昔之文... 其... 甚... 百... 對... 之... 數... 二... 指...





二十西 一十西 十西 九西 八西 七西 六西 五西 四西 三西 二西 一西 度中 一東 二東

四一  
四十  
三九  
三八  
三七  
三六  
三五  
三四  
三三

四一  
四十  
三九  
三八  
三七  
三六  
三五  
三四  
三三

滿洲

朝鮮

九州島

四國島

島渡

陸奥

陸前

陸中

陸後

陸上

陸野

陸武

陸總

陸房

常陸灘

房州沖

佐渡島

越前

越中

越後

越前

越中

能登

飛騨

美濃

濃後

濃前

濃野

濃武

濃總

濃房

丹波

近江

伊勢

伊和

隱岐

出雲

備前

備中

備後

石見

安芸

周防

長門

美作

備前

備中

備後

備前

備中

備後

備前

備前

備中

備後

備前

備前

備中

備後

備前

備前

備中

備後

備前

備前

備中

備後

備前

備前

備中

備後

備前

備中

備後

備前

備中

備後

備前

備中

備後

備前

備中

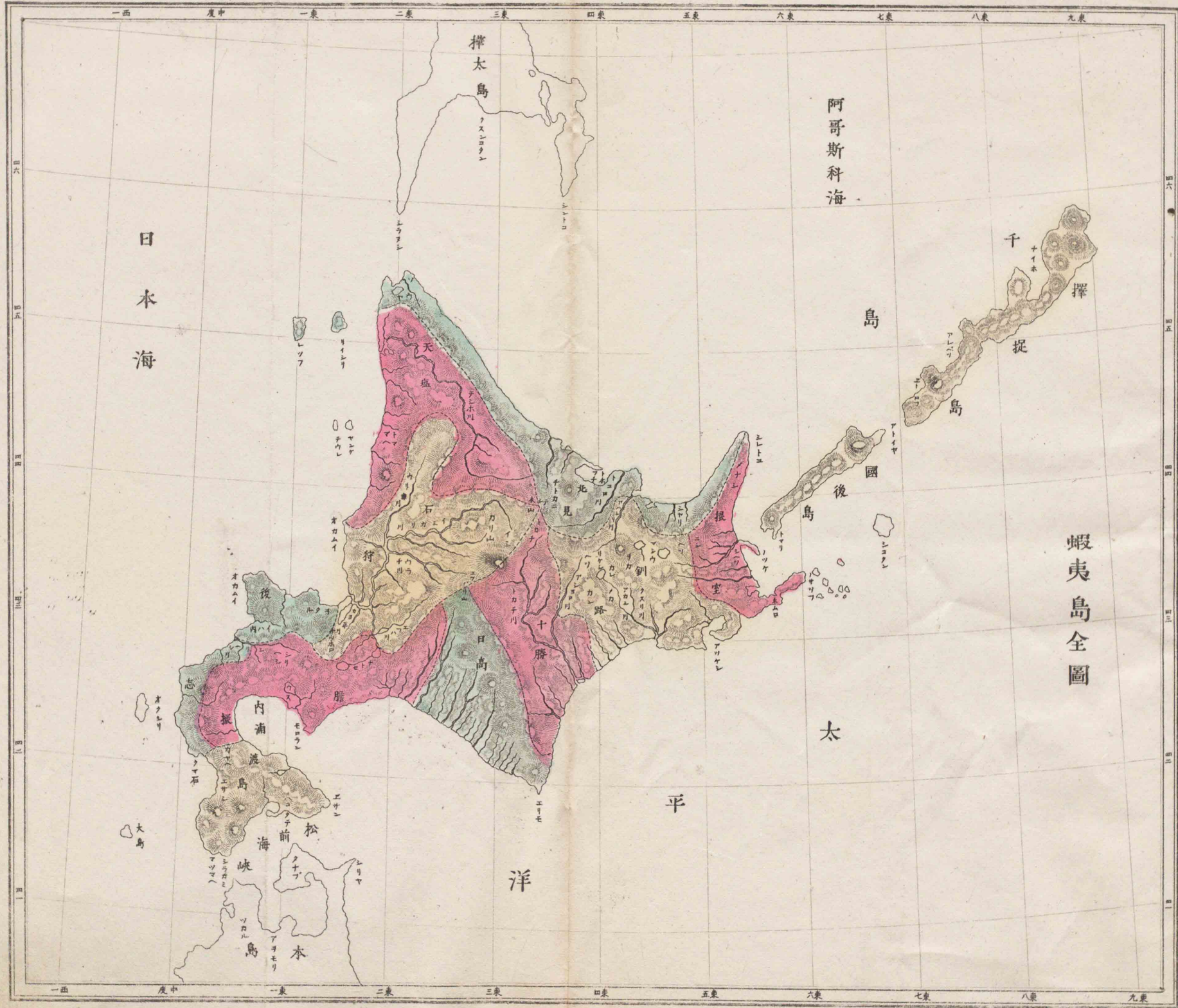
備後

備前

備中

備後





日本海

阿斯科科海

蝦夷島全圖

太平洋

洋

樺太島  
ノスニナラ

千  
ナイホ  
擇

捉

島

島

後

國

島

振

室

見

勝

石

狩

後

振

内

浦

島

海

峽

島

大島

松

前

海

本

島

本

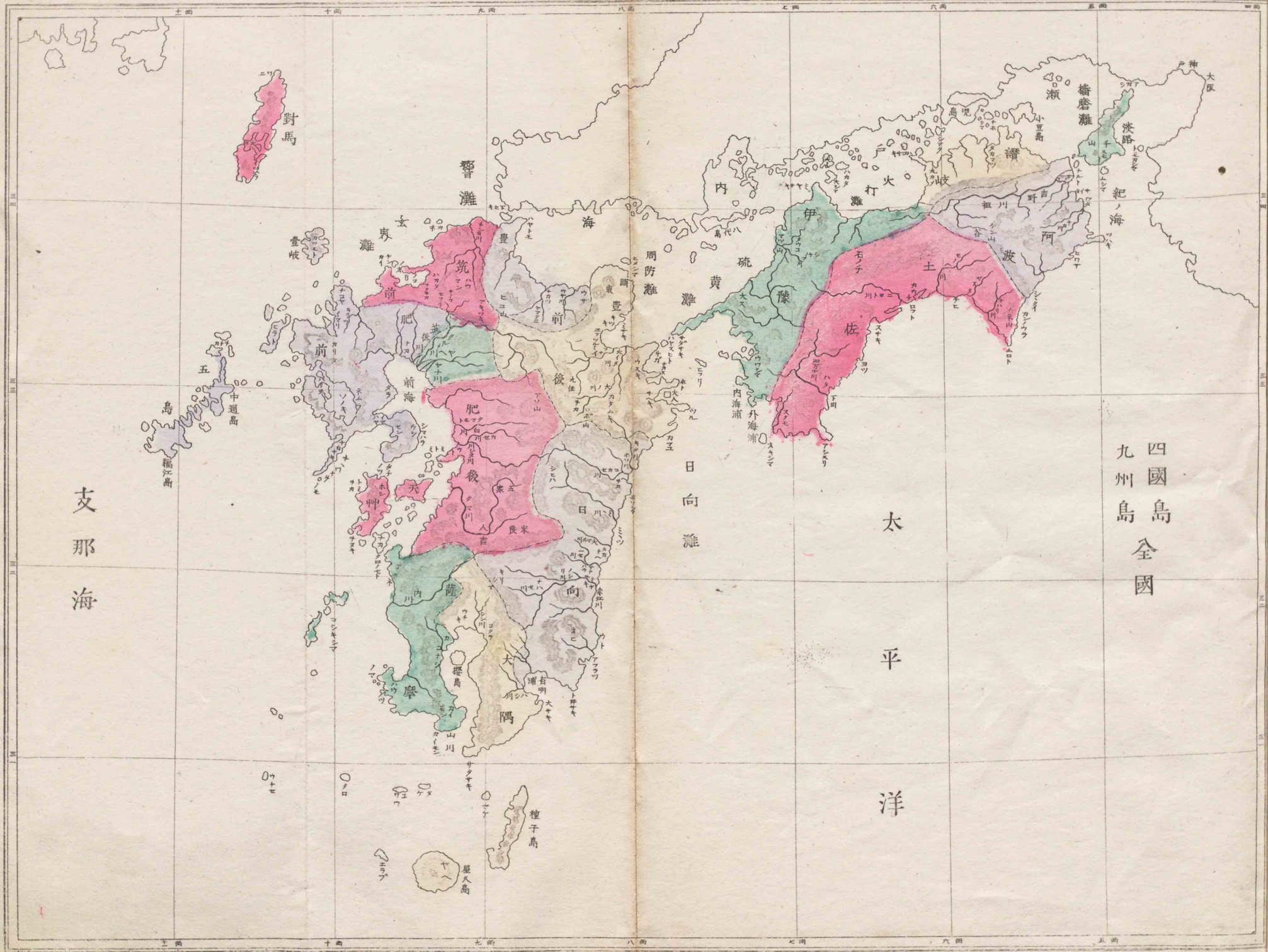
一西 度中 一東 二東 三東 四東 五東 六東 七東 八東 九東

四六 四五 四四 四三 四二 四一 四〇 三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一

四六 四五 四四 四三 四二 四一 四〇 三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一

一西 度中 一東 二東 三東 四東 五東 六東 七東 八東 九東





支那海

四國島  
九州島  
全國

太平洋

日向灘

對馬

豐前

筑前

肥前

佐賀

伊豫

周防

橋本

淡路

紀伊

阿波

土佐

石川

伊予

内子

大分

熊本

鹿兒島

那霸

宮城

山形

秋田

岩手

青森

弘前

津輕

陸奥

出羽

越前

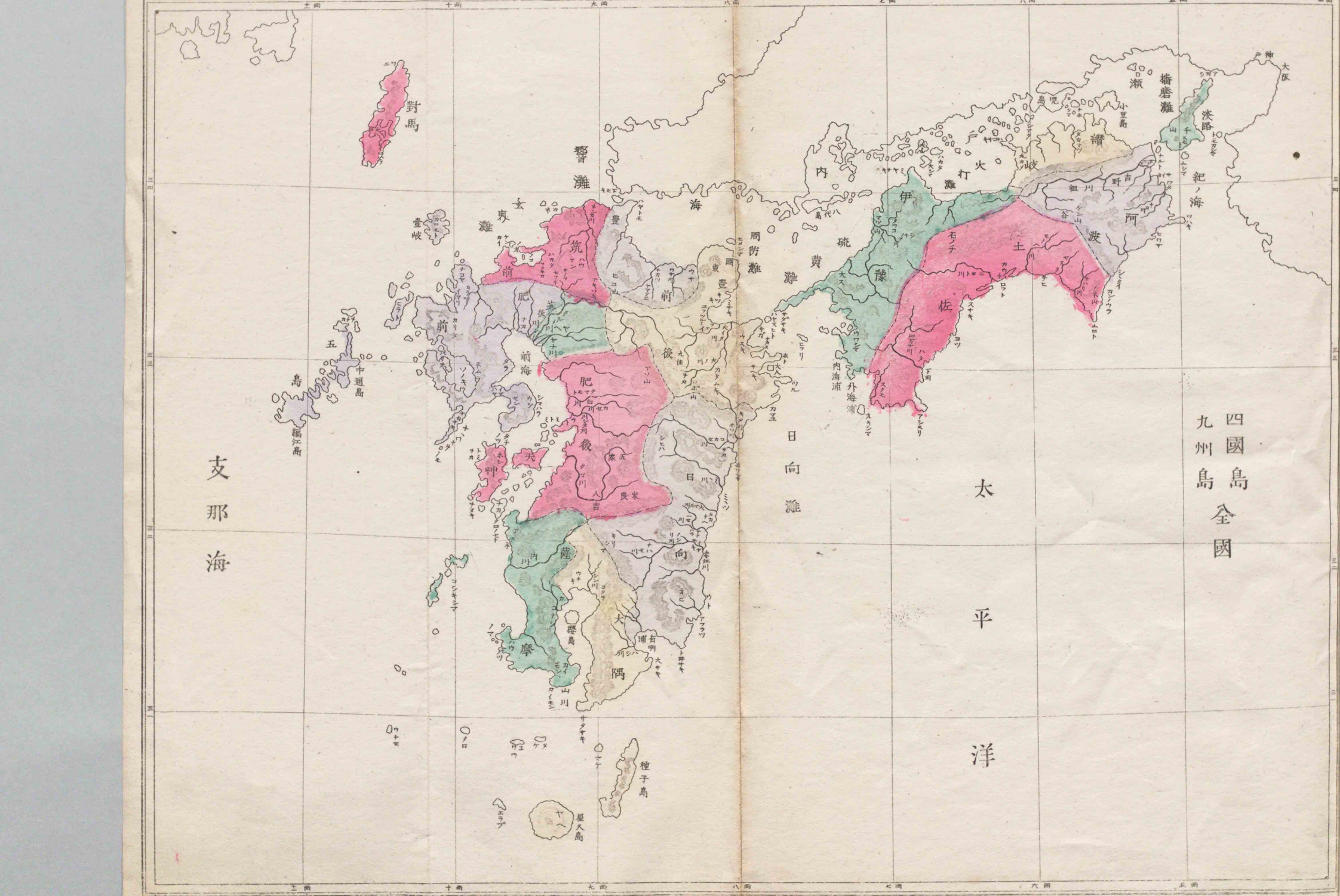
加賀

石川

富山

福井

山梨





改正日本地誌要略卷一

東京 大槻修二著述

總論

大日本國ハ、亞細亞洲中ノ獨立帝國ニシテ、洲ノ東方ニ居  
リテ太平洋ノ西北ニ並列セル嶋國ナリ、

位置ハ北緯二十四度十一分波照間嶋ヨリ起リテ五十度五十

六分洗戸嶋ニ終ル、經度ハ東京ノ東十六度四十分占守嶋ヨリ

西モ亦十六度五十二分與那國嶋ニ至ル、幅員ハ二萬四千八

百方里ニシテ人口ハ三千七百萬アリ、

地勢ハ四大嶋日本嶋、四國嶋、九州嶋、蝦夷嶋ト四千餘ノ嶋嶼トヲ列ネテ

東北ヨリ斜ニ西南ニ亘ルヲ一千五百里ニ及ベリ、東南ハ







東海道十五國一百二十九郡

伊賀四郡 阿拜山田 伊賀 名張

伊勢十三郡 桑名員辨 朝明 飯三重 飯野 河曲 鈴鹿 多氣

度會

志摩二郡 答志英虞

尾張八郡 愛智知多丹羽春日井

三河八郡 寶飯額田賀茂西 幡豆 長上 豐原

遠江十二郡 濱名設樂西 引佐 麤玉 長上 榛原

駿河七郡 志太富津有渡安倍 野城 東上

甲斐四郡 山梨醜 八代 西東 巨麻 北中 都留 北南

伊豆四郡 田方君澤 那賀 賀茂

小笠原嶋

相摸九郡 津久井上 足柄 高座下 鎌倉 三浦大住 愛甲

武藏二十二郡 兒玉幡羅摩 南西 荏原 橘 都筑 久良岐

安房四郡 入間新座安房 長狹 朝夷 葛飾 北企 高麗

上總九郡 天柄羽周 邊望 市原夷隅 埴生 上

下總十二郡 匝瑳岡田 葛飾 北中 印幡 埴生 香取

常陸十一郡 筑波河內 信太 新久慈 行方 鹿嶋

東山道十三國一百三十二郡

文正日本也志各

卷之二 總論



近江十二郡 滋賀 高嶋 栗太 甲賀 野洲 蒲生 香八  
美濃二十一郡 神崎 津 愛知 大上 不破 池田 淺井 西野 安八  
飛驒三郡 益田 大野 吉城 可兒 土岐 惠那 縣 海西  
信濃十郡 筑摩 高井 伊那 埴科 安曇 小縣 諏訪 久水 内上  
上野十四郡 吾妻 高利 根 勢多 北山 甘樂 那波 周佐 多胡  
下野九郡 新田 安藝 鹽谷 那須 都賀 下 寒川 河内  
磐城十四郡 磐前 白河 榎葉 標葉 石川 行方 宇多 菊多 磐前  
岩代九郡 伊具 會津 大沼 耶麻 岩瀨 安積  
陸前十四郡 栗原 志田 遠宮 桃生 加美 鹿登 米造

北陸道七國三十二郡 越前八郡 敦賀 南條 今立 丹生 足羽 吉田  
若狹三郡 三方 遠敷 大飯  
加賀四郡 江沼 能美 石川 河北  
能登四郡 羽咋 鹿嶋 鳳至 珠洲  
越中四郡 新川 下 婦負 礪波 射水

陸中十郡 本吉 磐井 氣山 膽澤 江刺 和賀 稗貫 紫波  
陸奥四郡 津輕 南 北 中 北 岩手 三戸 二戸 鹿角  
羽前四郡 置賜 南 西 村山 東北 最上 田川 西  
羽後八郡 飽海 由利 雄勝 平鹿 仙北 河邊

陸奥四郡 津輕 南 北 中 北 岩手 三戸 二戸 鹿角  
陸中十郡 本吉 磐井 氣山 膽澤 江刺 和賀 稗貫 紫波  
陸前十四郡 栗原 志田 遠宮 桃生 加美 鹿登 米造  
岩代九郡 伊具 會津 大沼 耶麻 岩瀨 安積  
磐城十四郡 磐前 白河 榎葉 標葉 石川 行方 宇多 菊多 磐前  
下野九郡 新田 安藝 鹽谷 那須 都賀 下 寒川 河内  
上野十四郡 吾妻 高利 根 勢多 北山 甘樂 那波 周佐 多胡  
信濃十郡 筑摩 高井 伊那 埴科 安曇 小縣 諏訪 久水 内上  
飛驒三郡 益田 大野 吉城 可兒 土岐 惠那 縣 海西  
美濃二十一郡 神崎 津 愛知 大上 不破 池田 淺井 西野 安八  
近江十二郡 滋賀 高嶋 栗太 甲賀 野洲 蒲生 香八

文正日本也志要各 總論



五十五 北海 諸郡 卷之十一

越後七郡 岩船 魚沼 蒲原 頸城 加茂 中 三嶋 古志 刈羽  
佐渡三郡 雜太 羽茂

北海道十一國八十七郡

渡嶋六郡 松前 上磯 龜田 茅部 檜山 爾志

後志十七郡 奧尻 久遠 太櫓 瀨棚 鳴牧 壽都

古平 歌棄

石狩 忍路 高嶋 古宇

積丹 美園

石狩九郡 札 纒 余市

夕張 厚田 濱益 樺戶 雨龍

天鹽 中川 上川

天鹽六郡 增毛

留萌 苦前 天鹽 中川 上川

禮文 宗谷 枝幸 紋別 常呂

北見八郡 網走 斜里

有珠 室蘭 纒別 白老

膽振 八郡 勇拂

日高七郡 沙流 泉

新冠 静内 三石 浦河 樣似

十勝七郡 廣尾 當緣

十勝 上川 中川 河東

釧路六郡 白糠 足寄

釧路 阿寒 川上 厚岸

根室五郡 花咲 根室

野付 標津 芽梨

千嶋八郡 國後 占守

振別 紗那 藻取 得撫

以上四道ヲ畿内ノ東北トス

山陰道八國五十三郡

丹波六郡 桑田 楠 船井 何鹿 多紀 冰上 天田

丹後五郡 加佐 與謝 中 竹野 熊野

但馬八郡 城寄 出石 美舍 二方 氣多 七美

因幡八郡 岩井 法美 智頭 邑美 八東 高草 久米

文三 卷之十一 總論







西海道十一國九十八郡  
喜多 宇和 南 北 西  
土佐七郡 幡多 香美 長岡 土佐 吾川 高岡

筑前五郡 遠賀 那珂 嘉麻 穂波 宗像 糟屋  
夜須 上座 下座 御原 山本 竹野 生葉

筑後十郡 三浦 御妻 下妻 山門 三池 竹野 生葉  
豐前八郡 下毛 救妻 田川 京都 仲津 築城 上毛

肥前十一郡 基肄 養父 三根 神崎 佐賀 小南 北西  
肥後十五郡 五名 山鹿 高來 阿蘇 益城 志 宇山 本

日向五郡 白杵 兒湯 諸縣 豐前 豐後 豐前 豐後 筑前 筑後 筑前 筑後 筑前 筑後

薩摩十三郡 阿多 日置 薩摩 伊佐 出水 高城  
大隅九郡 熊毛 桑原 始良 贈 肝屬 大隅

壹岐二郡 石田 壹岐  
對馬二郡 上縣 下縣

沖繩嶋  
以上四道ヲ畿内ノ西南トナス

四大嶋ノ形勢ハ中央ノ大嶋ヲ日本嶋トス、西ニ二嶋アリ  
テ其西ナル者頗大ナリ九州嶋ト云ヒ、東ナル者稍小ナリ、  
四國嶋ト云フ、而テ北ハ一嶋ヲ蝦夷嶋トス、  
日本嶋ハ國ノ本嶋ニシテ、中ニ畿内及五道ヲ置ク、其地勢

文正日本地志各  
卷之一 總論



八、南北二百里、折レテ西ニ亘ル二百八十里、周回一千九百  
里ニシテ一萬四千五百方里アリ、其幅ノ廣キハ百里ヨリ、  
狹キハ三十里ニ至ル、故ニ全嶋ノ形狹長ニシテ屈折シ、恰  
蛟龍ノ身ヲ起スガ如シ、畿内ヲ腰トシテ、東山道ハ、背脊ノ  
地位ニ亘レリ、東海北陸ノ二道ハ、其左右ノ脇肋ニ屬シテ、  
關東ノ地、其肩ニ當レリ、頭首ハ、北ニ向ヒテ直立ス、左右皆  
海是ヲ奥羽トス、上ニ大灣アリテ、口ヲ開クガ如シ、安房能  
登ノ兩半嶋ハ、兩足ノ狀ヲナシテ、近江ノ湖、其臍ニ當ル、山  
陰山陽ノ兩道ハ、尾ニ屬シテ、其幅甚狹シ、夫龍ヲ畫クニハ、  
首肩腰尾ノ間、各其長ヲ均シクスト、其法克ク此嶋ノ形狀  
ニ適ヘリ、

九州嶋ハ、本稱ヲ筑紫嶋ト云フ、周回ハ八百里、南北百里、東  
西ハ三十里ヨリ七十里ニ至ル、幅員ハ二千三百方里ニシ  
テ、中ニ九國アレバ九州嶋ト呼ブ、其形ハ猿猴ノ立チテ舞  
フ者ノ如シ、正北ハ、早鞆瀬戸ヲ隔テ、本嶋ノ西端ニ接シ、  
東ハ速吸戸ヲ以テ四國嶋ト海峡ヲ夾ム、此九州ハ壹岐對  
馬沖繩ノ三嶋ヲ合セテ西海道トス、南北百二十里、東西  
四國嶋ハ、嶋中ニ國四箇アルヲ以テ此名アリ、東西八十里、  
南北三十里、周回四百五十里ニシテ、千百五十方里アリ、嶋  
形ハ蝙蝠ノ兩翼ヲ張ルガ如シ、此嶋ハ、畿内ノ南ニ接セル  
紀伊國及淡路嶋ヲ合セテ南海道トス、而テ淡路嶋ト相夾  
ム海峡ヲ鳴門トシ、其淡路嶋ノ北端ハ、又本嶋ト明石瀬戸



ヲ夾ム故ニ四國嶋ノ北面ハ、山陽道ト相對シテ兩地甚相  
逼ル、且數百ノ嶋嶼其間ニ並ビ列リテ、西南ハ、早鞆速吸ノ  
兩海峽ニ至リ、東南ハ、明石、鳴門ヲ限リテ東西百餘里、一ノ  
内海ヲナセバ瀬戸内海ノ稱アリ、マナシノ島々、  
蝦夷嶋ハ、其形鯨魚ノ尾ヲ奮フニ似タリ、周回五百八十里  
ニシテ五千方里アリ、東西百七十里、南北百二十里、其南端  
ハ、本嶋ト松前海峽ヲ夾ム、此嶋ハ古ヨリ蝦夷地ト呼ビテ  
國土ノ經界モナカリシガ、明治二年、新ニ國郡ヲ建テ、千嶋  
ヲ合セテ北海道ト稱ス、  
全國ノ山脈ハ、千嶋ヨリ亘リ來リテ蝦夷嶋ニ連リ、阿寒十  
勝石狩夕張ノ諸岳相並ビテ共ニ西ニ赴キ、後志岳ヨリ南

ニ轉ジテ駒岳惠山ニ盡ク其脉ハ松前海峽ヲ隔テ、恐山  
ニ連リ、甲田山其南ニ峙チテ本嶋ノ背脊ニ亘レル大山脈  
ヲ起ス、奥羽ノ中央ハ、崑崙山、栗駒山、刈田岳、吾妻山等、其最  
大ナル者ナリ、其西ノ支脈ニ鳥海山、月山、朝日岳アリ、相並  
ビテ南ニ亘リ、岩代ヲ抱キテ、西ハ飯豐守門ノ諸岳トナリ、  
東ハ安達太郎山、那須岳トナリ、共ニ關東ノ北隅ニ集リテ  
日光山、最高シ、山脈是ヨリ西ニ折レテ北陸、東山兩道ノ際  
ニ亘リ、支脈ヲ南ニ分チテ淺間岳ニ連ヌ、其正脈ハ西ニ直  
行シテ、戸隱妙高ノ諸山トナリ、立山特ニ峻秀ニシテ、再支  
脈ヲ南ニ分チ、飛驒ヲ抱キテ、乘鞍岳、御岳、其中ニ高シ、白  
山ハ正脈中ノ大岳ニシテ、富士山、立山ト三高山ノ稱アリ、



白山ヨリ正北ニ分ル、支脈ハ日本海ニ突出シテ能登ノ  
半嶋國ヲナセリ、大日岳荒嶋岳等ハ白山ノ西ニ並ビ立  
キテ尚西ニ赴キ復支脈ヲ伊吹山ニ分テリ、正脈ハ又西ニ  
赴キテ直ニ山陰山陽兩道ノ分界ヲ限リ丹波ヲ包ミテ千  
丈岳豹山トナリ美作ヲ抱キテ那岐山大山トナル船通美  
古登三瓶十方木谷徳佐ノ諸山相連リテ方便山ヨリ豊浦  
山ニ盡ク即早鞆瀬戸ニシテ以上ノ連山ヲ本嶋ノ大山脈  
トス九州嶋尚其脈ヲ承ケテ南ニ環リ彦山九重山阿蘇山  
祖母山霧嶋山等相連リテ九國ヲ東西ニ分テ、櫻嶋岳開聞  
岳ニ至リテ絶エ屋久嶋ノ八重岳其海上ニ峙テ寶七嶋  
ニ連リ遂ニ大嶋沖繩嶋先嶋ニ亘リテ湯灣岳國頭岳佳楚

岳於茂登岳トナル是ヲ全國ニ連亘セル大山脈ノ首尾ト  
ス、  
支脈ノ大ナル者二條アリ其一ハ淺間岳ヨリ南ニ赴キテ  
本嶋ノ中央ヲ限ル者トス碓氷山秩父山等共ニ關東ノ西  
境ニ並ズ富士山ハ三高山ノ第一ニシテ我國無雙ノ大  
岳ナリ其脈ノ南端ニ立キテ太平洋ニ臨メドモ其尚南ニ  
走ル者ハ足柄箱根ノ諸山ヨリ天城山ニ連リテ伊豆ノ半  
嶋國ヲ起シ其餘脈直ニ洋中ニ散布シテ伊豆七嶋トナリ  
遂ニ小笠原嶋トナリテ大洋洲ノ群嶋ニ列レリ又秩父山  
ヨリ西ニ亘ル連山ハ金峯白峯等ハ甲斐ヲ包ミテ海山兩  
道ノ際ヲ限リ惠儀惠那ノ諸山トナリテ御岳ノ脈ト相合

白山ヨリ正北ニ分ル、支脈ハ日本海ニ突出シテ能登ノ  
半嶋國ヲナセリ、大日岳荒嶋岳等ハ白山ノ西ニ並ビ立  
キテ尚西ニ赴キ復支脈ヲ伊吹山ニ分テリ、正脈ハ又西ニ  
赴キテ直ニ山陰山陽兩道ノ分界ヲ限リ丹波ヲ包ミテ千  
丈岳豹山トナリ美作ヲ抱キテ那岐山大山トナル船通美  
古登三瓶十方木谷徳佐ノ諸山相連リテ方便山ヨリ豊浦  
山ニ盡ク即早鞆瀬戸ニシテ以上ノ連山ヲ本嶋ノ大山脈  
トス九州嶋尚其脈ヲ承ケテ南ニ環リ彦山九重山阿蘇山  
祖母山霧嶋山等相連リテ九國ヲ東西ニ分テ、櫻嶋岳開聞  
岳ニ至リテ絶エ屋久嶋ノ八重岳其海上ニ峙テ寶七嶋  
ニ連リ遂ニ大嶋沖繩嶋先嶋ニ亘リテ湯灣岳國頭岳佳楚



日本地理記 卷之一  
其二ハ伊吹山ヨリ南ニ亘ル者ニシテ、亦本嶋ノ中  
央ヲ限レリ、靈山鎌岳綿向山鈴鹿山信樂山等相連リテ伊  
賀ヲ包ミ、其南端ハ吉野熊野ノ群山トナリテ太平洋ノ岸  
ニ盡ク、又吉野山ヨリ西ニ分ル、者ヲ葛城山トス、其山脈  
ハ畿内ノ南境ヲ限リテ相連ル、二十里共ニ同稱ヲ以テ  
コレヲ呼ブ、其脈絶エル處ニ苦嶋アリ、即本嶋ト淡路嶋ト  
相夾ム海峽ニシテ、山脈ハ又鳴門ヲ踰エテ四國嶋ノ中央  
ニ亘リ、劍山三龍山瓶森石槌山等、四國ヲ南北ニ分チテ、亦  
南洋ノ岸ニ絶エ、本支山脈ノ連山ハ、皆火山ノ脈ニ當リ  
テ阿寒岳惠山恐山那須岳淺間岳妙高山立山及阿蘇霧嶋  
櫻嶋等ハ、共ニ有名ノ噴火山ニシテ、千嶋兩七嶋ノ峯尖ハ、

大率皆硫焰ヲ噴ク

全國ノ河水ハ、皆源ヲ此本支山脈ノ際ニ發スル者ニシテ、  
各分レテ四方ニ流レ下ル、蝦夷嶋ハ、十勝川釧路川共ニ  
南ニ流レテ太平洋ニ注ギ、石狩天鹽後志利別ノ諸川ハ、悉  
西流シテ日本海ニ入ル、石狩川ヲ我國第一ノ大川トス、  
本嶋ハ、奥羽ニ於テ北上、逢隈ノ兩大河共ニ東洋ニ入り、最  
上御物米代岩木ノ四川ハ、日本海ニ注グ、關東ノ利根川ハ、  
八州大半ノ水ヲ集メテ東洋ニ入り、荒川ハ、其中央ヲ環リ  
流レ、東京ニ至リテ江戸海ニ注グ、相模川富士川ハ、各富士  
山陰ノ水ヲ集メ、大井川天龍川木曾川ハ、源ヲ山道ニ發シ、  
五川同ジク南ニ下リテ安倍川豐川矢矧川等ト、共ニ海道



ノ巨川トナル、千曲川ハ本嶋第一ノ大川ニシテ、亦山道ヨ  
リ出テ、北ニ流レテ日本海ニ入ル、阿賀川神通川モ、其發源  
ヲ同クシテ、黒部射水手取安居ノ諸川ト、共ニ北陸七大河  
ノ稱アリ、淀川ハ琵琶湖ヨリ出テ、近畿七國ノ水ヲ合  
セ、西ニ流レテ大坂灣ニ入ル、吉野川北山川宮川ハ一源  
三流ニシテ、宮川ハ伊勢海ニ注ギ、吉野川ハ紀川ト呼ビテ  
紀海ニ入ル、北山川ハ熊野川ニ合ヒテ南洋ニ注ゲリ、山  
陰山陽ハ地幅狭小ナルヲ以テ、大河ナク、由良川城崎川出  
雲大川等ハ北ニ流レテ日本海ニ入リ、吉備川旭川河邊川  
大田川岩國川ハ、共ニ南ニ流レテ瀬戸内海ニ注グ、石見川  
ハ、獨其源ヲ山陽ニ發シテ山陰ニ流ル、是ヲ兩道中ノ大川

トス、九州嶋ハ、其川流東西ニ分レテ、筑後川最大ナリ、球  
摩川川内川ト共ニ筑紫三大河ト稱シテ、西ニ流ル、五箇瀬  
川耳川大淀川ハ、皆東ニ流レテ日向灘ニ注グ、惟大野川ハ  
東北ニ下リテ瀬戸内ニ入レリ、四國嶋ノ水流ハ、南北ニ  
分流スベキニ、吉野川嶋中ノ大河ヲ以テ、東ニ流レテ鳴門  
峽外ニ注グ、其他ハ山脈ヲ分チテ、肱川重信川共ニ瀬戸内  
海ニ入リ、四萬十川仁淀川ハ、太平洋ニ注ゲリ、  
四大嶋ハ、本支山脈ノ其中央ニ連リ、亘ルニ因リテ、國郡ノ  
幅員ハ、廣狹均カラズ、然レ各大河ノ沿岸ハ平坦ノ地頗多  
シ、其最廣キ處ハ、利根川荒川ノ左右ニシテ、關東八州ノ平  
野ト呼ビ、四方五十里ニ亘リテ、全國第一ノ沃野ナリ、其次



ヨ石狩川ノ兩岸トス、平坦三十里ナレド、今尚荒蕪セル曠  
原ナリ、木曾川ノ下流ハ、美濃尾張ノ兩國ニ亘リテ其沿岸  
ハ平坦ナルコト二十里、千曲川ノ下流モ亦越後ノ大半、其左  
右ニ沿ヒテ二十里ノ平野アリ、北上川ハ、上流ヨリ兩岸大  
率平地ニシテ、中流以下ハ、十餘里ノ廣原、其東西ニ連レリ、  
筑後川モ兩筑肥前ノ三國ニ亘リテ十餘里ノ平野ニ及ブ、  
其他諸大川ノ左右ハ、必數里ノ平野アリテ、且其際ニハ必  
湖沼相並ビタリ、  
湖水ハ、近江ノ琵琶湖ヲ第一トシテ、常陸ノ霞浦コレニ次  
グ、其他ハ猪苗代湖、八郎瀉、実道湖、印幡沼、及阿寒、猿間、楓蓮  
ノ諸湖ハ、共ニ周回十數里ノ湖ナリ、

地方ノ稱呼ハ、畿内八道ノ定名アレド、亦別ニ泛稱總稱ア  
リ、畿内ヲ上方ト呼ビ、山陰、山陽ヲ中國ト泛稱シ、北陸ヲ北  
國ト唱ヘ、西海ヲ西國ト稱スルノ類アリ、東海、東山ハ、常ニ  
海道、山道ト略稱シ、又、山道ヲ分チテ東海、北陸ニ道ノ間ヲ  
中山道ト云ヒ、左右ニ海ヲ受クル處ヲ奥羽ト總稱ス、關東  
トハ、海山兩道ノ東南隅ニシテ、奥羽ヲ合セテ、又東國ト呼  
ベリ、

國名ヲ呼ブニ、某州ト唱フルコト頗久シ、故ニ關東八州、奥羽  
二州、中國十三州、西國九州等ノ稱呼アリ、而テ一國ノ名ハ、  
畿内ニ城州山城和州大和河州河内泉州和攝攝州攝津稱アリ、東海  
ニハ勢州伊勢尾州尾張駿州駿河豆州伊豆武州武藏房州安房ト呼ビ、東

日本地志要略 卷之一



山北陸ニハ、江州江近濃州美濃信州信濃加州賀能佐州佐渡  
唱フ、中國モ亦因州因幡伯州伯耆雲州雲出播州播磨藝州藝安長州長門  
等ノ稱ヲ用キ、南海ノ紀州伊紀阿州阿波豫州伊豫土州土佐西海ノ  
日州日向薩州薩摩對州對馬等皆呼ビテ通稱トス、其上下前後ニ  
分テル國モ亦上野ヲ上州ト呼ビ、下野ヲ野州ト唱ヘ、又越  
州越前備州備前肥州肥後ノ稱アリ、  
國土ノ沿革ハ、西ヨリ東ヘ開ケ來リシ者ニテ、神武帝ハ、日  
向ヨリ東征ノ師ヲ起シテ筑紫吉備ヲ平ゲ、遂ニ大和ヲ定  
メテ帝都ヲ置ク、此時新ニ國造ヲ建ツル者、其近傍數國ニ  
シテ、尾張美濃ヨリ東北ハ、悉蝦夷ノ住處ナリ、崇神帝始テ  
將軍ヲ東國越國ニ遣リテ其土夷ヲ撫從セリ、景行帝西ハ

熊襲ヲ征シ、東ハ蝦夷ヲ伐チ、日本武尊常ニ其討定ノ任ヲ  
受ク、成務帝ノ時東北ノ地大率王化ニ服シケレバ、山河ノ  
形勢ニ從ヒテ、全國ニ數十ノ國縣ヲ置ク、是ヨリ國土ノ經  
界始テ定ル、爾後五百年、其邦制ヲ傳ヘタリシガ、孝德帝ニ  
至リテ、大化二年、新ニ國郡ノ制ヲ建テ、更ニ國司郡領ヲ撰  
ビテ民治ヲ掌ラシム、又畿内ノ方域ヲ定ム、天武帝ノ時ニ  
諸國ノ境界ヲ定メ、文武帝ニ至リテ法律政令ヲ頒チ、七道  
ノ制始テ備ル、然レ本嶋ノ北隅ヨリ、蝦夷嶋ハ尚其制ニ依  
ラズシテ夷地ニ委ネタリ、和銅五年、出羽國ヲ建テシヨ  
リ征討數十年、遂ニ延曆中ニ至リテ坂上田村麿、悉土夷ノ  
本嶋ニ在ル者ヲ平ゲ、松前海峽ヲ以テ華夷ノ經界トナス、



其後六百年ヲ經テ、蠣崎信廣逃レテ渡嶋ニ入リ、享徳中居  
城ヲ築キテ全ク蝦夷嶋ヲ領セシヨリ世々相傳フルヲ四  
百十餘年ナリキ、  
明治元年新ニ府藩縣ヲ置キテ國郡ヲ分治セシメ、又奥羽  
ヲ分チテ七國トシ、明年北海道ヲ建テ、始テ八道トナル  
四年七月、藩ヲ廢シテ縣トナス、五年、琉球ハ内附シ、八年、千  
嶋悉我有トナリ、九年、小笠原嶋全ク我ニ屬セリ、十一年郡  
區ノ制ヲ定ム、三府ハ東京、京都、大坂ニシテ、縣ハ十五年  
定メテ四十四縣トス、別ニ開港場五港アリ、即外國ト通商  
交易スル處ニシテ、武藏橫濱、攝津神戶、肥前長崎、越後新潟、渡箱館、是鳴  
ナリ、而テ東京、大坂モ亦互市場ヲ置ク、

道路ハ、東京ヲ全國ノ基程ト定メ、西南ハ西京及赤間關熊  
本ヲ經テ鹿兒嶋ニ至ル三百八十九里、又東北ハ仙臺箱館  
ヲ過ギテ根室ニ達スル三百八十四里、通計七百七十三里、  
是ヲ全國ニ通ズルノ官道トナス、  
物産ハ、金、銀、銅、鐵、鉛、錫及石炭、硫黃ノ諸礦物ヨリ、水晶、瑪瑙  
等ノ寶石アリ、石材ハ、花崗、寒水等數十種ニシテ、木材ハ、檜  
杉、松、檜、榲、楠及竹、茅等、皆建築ノ用ニ供ス、培養ノ殖物ハ、茶  
桑、蔗、檀、楮、漆及木綿、烟草等ニシテ、米、麥、豆、黍ノ諸穀ハ最富  
ミテ、全國ノ人民皆常用ノ食料タリ、又果實、海藻アリ、動物  
ハ、魚介ヲ常食トスレバ、川澤湖海ノ産、皆其料ニ充ツ、鯨節  
ハ、貴賤必用ノ食料ニシテ、鯨獵ハ、沿海諸國ノ一大利益タ



リ、鳥肉ハ、雞鴨鶴雁ノ類ヲ賞味シ、獸肉ハ牛豚猪鹿ニ及ブ、馬ハ其形長大ナラザレドモ、馳驅ノ技ニ堪ヘ、犬ハ銳敏ノ性少キモ、獵狗自逐殺ノ用アリ、酒鹽ノ製釀全國アラザル處ナク、味醂醬油ハ、海外ニ賞味セラレテ殊ニ有名ノ良品タリ、工作ノ物ハ生絲特ニ精良ニシテ、紙モ亦精滑堅硬ヲ極ム、織物ハ、絹布綿布麻布等ニシテ、燒物ニ、磁器陶器アリ、染物ニ、染布染革アリ、漆器ハ殊ニ有名ノ良品ヲ製シ、鍍器ハ刀劍斧鎌鍋釜鋤鍬ノ製造頗盛ナリ、金銀銅錫ノ器具ハ高彫象嵌等ニシテ、木器ハ寄木埋木皆其絕技ヲ極ム、其他象牙鼈甲鯨鬚及籐竹諸細工ハ皆精巧ニシテ、彫刻術ノ巧ナルヲハ、文字畫圖ノ精細其刀却テ筆ノ上ニ出ヅト云フ

兩京

東京西京ヲ兩京トナス、西京ハ、延曆ノ舊都ニシテ、東京ハ、明治ノ新京タリ、兩京相距ル東海道ハ、一百三十二里、中山道ハ、更ニ、六里半ヲ加フト云フ、

東京

東京ハ、武藏國豐嶋郡ニ在リテ、南ハ荏原郡ニ亘リ、東ハ葛飾郡ニ跨ル、東西三里、南北四里、街市ヲ分チテ、麴町日本橋京橋等十五區トス、戶數二十萬人口一百万アリ、然レ、羈寓ノ出入ヲ算スレバ、常ニ一百三十萬ニ下ラザルベシ、全都ノ地勢ハ、武藏野ノ東隅ニ居テ、南ハ江戸海ノ涯ニ沿



七、東ハ淺草河ヲ帶ビ、皇城其中央ニ在リ、高爽ニ倚リテ、平坦ニ臨ミ、南ヲ霞關ト云ヒ、北ヲ九段ト云フ、共ニ坂路アリテ、高低兩地ノ經界ヲナス、低地ヲ下町ト總稱シ、高地ヲ山手ト泛稱ス、總ベテ地勢ノ高處ヲ指シテ高臺ト呼ブ、故ニ湯嶋臺三田臺ノ稱アリ、

皇城ハ江戸城ト稱ス、北緯三十五度四十分ニ位シテ、經度ハ是ヨリ始レリ、本丸西丸ノ兩城相並ビテ、城溝數重アリ、和田倉馬場先櫻田ノ三門ハ、西丸ノ東南ヲ擁シ、竹橋田安清水半藏ノ四門ハ、本丸ノ西北ヲ環レリ、而テ内郭ノ東門ヲ常盤橋ト云フ、石橋ノ製、最美麗ヲ盡セリ、其南ノ三門ヲ、吳服橋鍛冶橋數寄屋橋ト云ヒ、北ノ三門ヲ、神田橋一橋雉

子橋トナス、雉子橋ノ外ハ、即九段坂下ナリ、而テ霞關ノ下ハ、更ニ一郭ヲナシテ、櫻田ト總稱シ、虎門幸橋山下門等、相圍ミテ、正南ノ外郭ヲ擁ス、○元老大審ノ兩院、外務内務大藏等ノ諸省、大率皆郭内ニアリ、又陸軍ノ諸兵營及裁判所印刷局工學校等ハ、共ニ其建築皆壯大ヲ極ム、東京府廳ハ、幸橋ノ内ニアリ、○此城ハ、天正十八年、徳川家康始テ居城ヲ築造セシ時、太田道灌ガ舊構ニ就キテ、其城郭ヲ大ニシ、其後征夷大將軍ニ任ジテ、政權ヲ執ルニ及ビ、幕府ヲ開キテ、其職ヲ世襲スルヲ二百六十五年、故ニ大小ノ侯伯皆藩邸ヲ府下ニ置キ、又旗下ノ諸臣、悉第宅ヲ設クレバ、往時ハ、高門巨館、相連リテ、府内ノ人口、總計百五十萬ニ過ギシト



云フ、十五代將軍慶喜ニ至リ、慶應三年、政權ヲ朝廷ニ奉還セリ、明年詔シテ曰ク、江戸ハ東國第一ノ大鎮、四方輻湊ノ地ナレバ、宜シク親臨シテ、以テ其政ヲ視ルベシト、遂ニ陞セテ、東京トナス、實ニ明治元年七月ナリ、

豐嶋川ハ、荒川ノ下流ニシテ、西ヨリ來リ、千住ニ至リテ、大橋ヲ架ク、川流ハ、漸下リテ、綾瀨川ト合ヒ、西南ニ轉ジテ隅田川ト呼ブ、橋場今戸ニ沿ヒテ、真乳山ノ下ヨリ、淺草川ト云ヒ、又宮戸川ノ稱アリ、是ヨリ下流ハ、街市兩岸ヲ夾ミテ、吾妻橋廢橋ヲ架ク、御藏下ヲ過ギテ、忍川ヲ受ケ、又神田川ヲ合スル處ヲ、兩國ト云ヒ、長橋ヲ架ケテ、本所ノ通路トス、稍正南ニ流レテ、新大橋ヲ過グレバ、中洲アリテ、水流相分

ル、是ヲ三叉ト呼ブ、洲南ノ箱崎ヨリ、永代橋ヲ深川ニ架ク、橋下ハ、即河口ナレドモ、石川嶋佃嶋相並ビテ、其中流ニ當リ、東ハ越中嶋ニ對シ、西ハ靈巖嶋鐵砲洲ト、河口ノ兩岸ヲ夾ミタレバ、築地ニ至リテ、始テ内海ニ會セリ、綾瀨合流ヨリ、此ニ至ルニ里、此川ハ、豐嶋葛飾兩郡ノ界ニシテ、河東ハ、元下總ノ地ナレバ、兩國ノ名アリ、其水勢遲緩ニシテ、舟運ノ利、甚多ク、且、河幅ハ、五大橋、其長各百間許、永代兩國、最壯大ナリ、故ニ都人ハ、直ニ大川ト呼ベリ、

内海ハ、芝浦ト總稱シテ、築地芝濱ヨリ、南ハ高輪品川ニ亘レリ、即江戸海ノ東北隅ニシテ、海底ハ、淺沙遠ク亘リ、一里以外ニアラザレバ、大船ヲ碇泊スルヲ能ハズ、海中ニ石堡



六臺アリ、安政中ノ新築ニ係レリ、  
 神田川ハ、神田上水ノ餘流ニシテ、其上流ヲ江戸川ト云フ、  
 目白臺下ノ關口ヨリ分レテ、東南ニ流レ、小日向ヲ過ギテ、  
 牛込門東ニ至リ、東ニ轉ジテ、小石川門ニ沿ヒ、水道橋ノ下  
 ヨリ、湯嶋臺駿河臺ノ際ニ入りテ、兩崖相逼ル、漸下レバ、石  
 橋アリ、萬世橋ト云フ、是ヨリ神田川ト呼ビテ、柳原堤ニ沿  
 ヒ、淺草橋其下流ニ在リテ、鐵橋新ニ成ル、橋東ハ淺草川合  
 流ノ處ニシテ、牛込ヨリ、常ニ小舟ノ上下ヲ通ゼリ、○赤羽  
 川ハ、上流ヲ澀谷川ト云ヒテ、豐嶋荏原ノ郡界タリ、其源流  
 ハ、亦玉川上水ノ餘派ヨリ流レ來ル者ニシテ、内藤新宿ヨ  
 リ、南ニ流レテ、澀谷廣尾ヲ過ギ、三田麻布兩岡ノ間ヲ環リ

テ、東ニ流レ、赤羽ニ至リテ、漸舟行アリ、芝公園ニ沿ヒテ、芝  
 濱ニ注グ、其通衢ニ架クル一橋ヲ、金杉橋ト云フ、  
 忍岡、向岡相並ビテ、西北ヨリ亘リ來ル、兩岡ノ間ニ、不忍池  
 アリ、下流ハ、即忍川ナリ、忍岡ハ、上野ト呼ビテ、公園ノ地々  
 リ、其北ハ、谷中、白暮里ヨリ、長岡一帶、西北ニ連リテ、道灌山  
 飛鳥山トナル、向岡ハ、本郷臺ノ東面ニシテ、忍岡ト相向フ、  
 故ニ此稱アリ、本郷ハ、湯嶋臺ノ北ニ連リテ、北ハ駒込、巢鴨  
 ニ亘レリ、其西面ハ、白山丸山ノ地、相並ビ、小石川ノ上ニ連  
 リテ、湯嶋駿河ノ兩臺ニ亘ル、駿河臺ハ、舊稱ヲ神田臺ト云  
 ヒ、共ニ府ノ北ニ亘ル高臺ニシテ、神田川ヲ夾ミテ、相對セ  
 リ、○麻布ハ、西南ノ高岡ニシテ、東ハ西窪ヲ抱キテ、愛宕山



トナリ、其南ニ亘リタル三縁山ハ、増上寺ノ山號ニシテ、山内ヲ芝公園トナス、其西南ハ、赤羽川ヲ隔ツル高臺ヲ、三田トナシ、白銀伊皿子及高輪臺等、南ニ連リテ、海濱ニ沿ヒ、其南ハ、品川ノ谷山御殿山ニ亘レリ、  
 下町ハ、城東ノ平坦ニ連ル街市ニシテ、芝浦ニ臨ミ、淺草川ヲ夾ミ、南ハ高輪ヨリ、北ハ淺草ニ至リ、其中央ハ、内郭ノ城溝ヨリ、三條ノ溝渠ヲ、東西ニ貫キテ、内海及大川ニ通ジ、共ニ舟運ニ便ニス、日本橋京橋新橋ノ三橋ヲ、各溝ノ正中ニ架ケテ、府中南北ノ大路トナシ、金杉橋ヨリ、萬世橋ニ直行セル者ヲ、通町ト呼ブ、又常盤橋ヨリ、東ニ亘リテ、兩國淺草ノ兩橋ニ至ル者ヲ、本町通ト云フ、日本橋ヲ、府ノ正中ト定

メ、品川千住板橋新宿ノ四驛ニ至ル、其路程各ニ里餘アリ、  
 ○江戸橋ハ、日本橋ノ東ニ並ブ石橋ニシテ、其橋南ニ驛遞局ヲ置キテ、郵便發著ノ本局トナス、橋下ノ溝ハ、東南ニ折レテ、永代橋下ニ達ス、其間ニ鎧橋湊橋アリ、日本橋ノ南北ナル通町、及本町通ハ、市廛大率、土藏空屋相列リテ、街路悉壯整ナリ、此街市ハ、共ニ日本橋ト稱セル一區ニシテ、通町ハ、南ヲ中橋ニ限リ、北ハ今川橋ニ至リ、又東ハ大川ニ沿ヒテ、兩國及濱町ヨリ、箱崎ニ及ベリ、京橋ノ溝ハ、八町堀トナリテ、靈巖嶋鐵砲洲ノ間ニ至リ、新橋ノ溝ハ、汐留ト云ヒ、濱離宮ノ外溝トナリテ、内海ニ通セリ、京橋新橋ノ間ハ、街市皆煉瓦ヲ疊ミテ、家屋ヲ建築シ、道路ハ、樹木ヲ植エテ三條



ノ經界ヲ定メ、中央ヲ車馬ノ通路トナス、兩側ヲ徒歩ノ處トナス、其間南北八町ヲ銀座通ト稱セリ、銀座ノ東ハ木挽町ト云ヒ、電信局ヲ置キテ、全國電線ノ中央ト定ム、其東ハ即、内海ノ涯ニシテ、築地ニ海軍省ヲ置キ、鐵砲洲ヲ外國互市場トス、濱離宮ハ、中ニ延遠館ヲ設ケ、金碧粧成シテ、外人ヲ饗待スル宮殿ナリ、以上ノ街市ハ、京橋ノ北ナル中橋ヨリ、南ハ八町堀靈巖嶋ニ亘リテ、京橋ト稱セル一區タリ、此兩區ハ、殊ニ繁盛ナル處ニシテ、府下第一等ノ街市トス、○神田橋外ヨリ、南ハ今川橋ニ至リ、北ハ萬世橋ノ左右ニ亘リテ、神田川ノ内外ニ沿ヒタル街市ハ、神田ト總稱セシ處ナルガ、又西ハ九段坂下ヲ限リ、小川町、駿河臺ヲ并セテ、神

田區ト定ム、萬世橋ノ西北岡上ニ、神田神社アリ、其西ニ昌平館アリ、神田川ノ崖上ニ臨ミテ、徳川氏ノ時ニ、湯嶋學問所ト稱セシ處ナリ、維新ノ始ニ、建テ、大學本校トシタリ、今尚寛政中造營セシ聖堂ヲ存ス、其西ニ師範學校男女兩曹アリ、一橋外ニ商業學校及大學豫備門ヲ置ク、其東ニ接シテ、一ノ大校アリ、學習院ト稱シテ、華族修學ノ講場トス、○新橋ノ南ヲ、芝口ト云ヒ、以南ハ芝ト總稱スル一區ニシテ、愛宕下ヨリ、三田及白金高輪ニ亘レリ、其沿海ノ通路ハ、金杉橋ヨリ、本芝田町ヲ經テ、品川驛ニ至ル一里、是ヲ東海道ノ門口トナス、芝口ニ、瀛車休停館アリ、造營頗壯大ニシテ、鐵道ヲ横濱港ニ通ズル七里、其發車ハ一日十回、館外ノ



石橋ヲ蓬萊橋ト云フ、即汐留溝ニ架クル者トス。○神田川以北ハ、下谷淺草ノ兩區ニシテ、東西二分テリ、下谷區ハ、忍岡及湯嶋臺ノ麓ニ亘リ、萬世橋ヨリ上野公園ニ大路ヲ通ジ、又山下坂本ヨリ、北ニ亘リテ、千住驛ニ至ル支路ヲ金杉通ト云フ、山下ニ瀛車休停館ヲ置キテ、中山道陸羽街道ノ鑄道ヲ通ズ、淺草區ハ淺草川ニ沿ヒテ、河岸ノ米廩ヲ御藏ト云フ、南ニ職工學校アリ、其前路ハ淺草橋ヨリ千住ニ通ズル正路ニシテ、人馬ノ通行最多シ、千住驛ヲ陸羽街道ノ門口トナス、淺草寺ノ觀音堂ハ、有名ナル伽藍ニシテ、本堂及二王門五重塔皆頗廣大ヲ極ム、寺内ヲ淺草公園トス。○淺草川ヲ東ハ、北ヲ本所ト呼ビ、南ヲ深川ト云ヒテ、兩區二分

ツ、即葛飾郡ノ地ナリ、豎川小名木川ノ兩溝ヲ東西ニ貫ク、三里大川ヨリ中川利根川ニ通ジテ、常ニ舟運ノ便アリ、豎川通ハ、兩國ヨリ、東ニ亘リタル街市ニシテ、房總街道ノ正路ナリ、内海ノ濱ハ、越中嶋洲崎等、石堤ヲ築キテ、海岸ヲ限レリ、富岡神社ハ、深川ハ幡ト呼ビ、亦公園ノ設アリ、其東ノ木場ハ、各種ノ材木ヲ蓄ヘテ、全都建築ノ用ニ供ス、山手ハ、城西ノ高地ニシテ、麴町番町ハ本城ノ後背ニ當リ、半藏門ヨリ四谷門ニ通ズル大路ヲ、麴町通ト呼ビ、其南北ヨリ皇城及内郭櫻田ノ地ヲ并セテ、麴町區ト總稱ス、九段坂上ニ靖國神社アリ、維新以來王事ニ死セシ者ヲ祀リテ、一年四回ノ祭典ヲ行フ、永田馬場ハ、霞關ノ上ニシテ、日吉



神社アレバ、山王臺ト呼ブ、臺上新ニ公園ヲ設ク、臺下ノ溜池ハ、東ニ流レテ、虎門ノ外溝トナル、其西南ハ、赤坂、麻布ニシテ池ノ西隅ヨリ、外郭ノ城溝ヲ環ラシテ、東北ハ、江戸川ニ通ゼリ、其外郭ノ五門ヲ赤坂、喰違、四谷、市谷、牛込ト云フ、麻布、赤坂、四谷、牛込ノ四地ハ、各一區ヲナセリ、赤坂離宮ハ、赤坂門外ニ在リ、本城焼亡ノ後、假ニ皇居ト定メ、太政官モ亦移シテ宮内ニ置ク、青山離宮其南ニ接シテ大宮御所タリ、○麻布區ハ、其東南ニアリテ、飯倉、赤羽ヲ限リテ芝區ト相接ス、○四谷ハ、甲州街道ノ通路ニシテ、内藤新宿ヲ其驛次トス、常ニ新宿ト單稱シテ全府ノ西口トス、其傍ニ植物園アリ、○牛込區ハ、市谷ヲ弁セテ一區トシ、陸軍ノ士官學

校及監獄署等アリ、○小石川モ亦一區ノ總稱ニシテ、小石川門外ニ砲兵本廠アリ、其後苑ヲ後樂園ト云フ、園後ヨリ長岡一帶西ニ連リテ江戸川ニ亘リ、其隅ヲ目白臺トス、岡上ハ音羽、大塚等ノ地ニシテ、護國寺ノ後山ヲ豊嶋岡ト云フ、○本郷ハ、湯嶋及駒込ヲ南北ニ列ネテ一區トナセリ、向岡ノ上ニ東京大學ヲ建テ、法學、理學、文學、醫學ノ四部ニ分チ、又病院アリ、校ノ西門ハ、本郷通ノ正路ニ向ヒテ、萬世橋ヨリ板橋驛ニ通ズル者ナリ、是ヲ中山道及北國街道ノ官道トス、

抑下町ノ地ハ、往時海濱ノ泥沙ナリシカバ、低窪卑濕ニシテ、清泉ヲ得ルヲ能ハズ、徳川氏ノ世、早ク既ニ引水ノ功ヲ



興シ、承應中、二條ノ水道ヲ開キテ、街路ノ底ニ渠樋ヲ通ジ、井ヲ各巷ニ置キテ、飲料ニ供ス、呼ビテ水道水ト云フ、即玉川、神田、兩上水、是ナリ、玉川上水ハ、多摩川ノ上流ヨリ、長渠ヲ分疏スル十三里、内藤新宿ニ至リ、始テ地底木樋ノ設アリ、本城内ヲ貫キテ、内郭ノ間ヲ環ル、其一派ハ、四谷門外ヨリ、赤坂ヲ過ギテ、芝口ニ至リ、南ハ芝濱ニ達シ、東ハ濱離宮ニ入り、北ハ京橋南北ヨリ、築地ハ町堀ヲ環リテ、靈巖嶋ニ及ベリ、神田上水ノ源泉ハ、井頭池ヨリ、東流五里、目白臺下ニ至リテ、大堰ヲ設ク、故ニ關口ノ稱アリ、上水ハ、更ニ小渠トナリテ、後樂園中ニ注ギ、石渠ヲ地底ニ築キテ、水道橋ヨリ小川町ニ通ジ、日本橋ノ南北ヨリ、大川、神田川ヲ限リテ、

到ラザル處ナシ、又千河上水アリ、板橋ヨリ本郷區ニ通ジテ止野公園ニ及ベリ、下谷、淺草本所、深川ノ四區ハ、其設置アラザレバ、飲水頗清良ナラズ、河東ノ兩區、殊ニ甚シト云フ、公園ハ、上下貴賤共樂ノ遊園ニシテ、上野ヲ第一トナス、寛永寺ノ舊趾ナレバ、東叡山ノ稱アリ、地勢廣濶ニシテ、高樹鬱蒼タリ、且満岡ノ櫻樹ハ、開花ノ候最美觀ナリ、中央ニ博物館ヲ置ク、工藝史傳、天産等ノ諸部ニ分チテ、内外古今ノ品物悉備ル、又圖書館アリテ、群書ヲ貯ヘタリ、別ニ教育博物館アリ、○淺草公園ハ、觀音堂ノ奥山ト呼ビ來リシ處ニテ、技藝諸曲ノ興行及各種細工ノ展覽ヨリ、寫真アリ、楊弓



アリ、園内ニ花屋舗ヲ設ケ、園外ニ勸工館ヲ置ク、故ニ都下  
 遊覽場ノ第一ニ居リ、上野ハ幽清ヲ賞スベク、淺艸ハ繁華  
 ヲ覽ルベシ、○飛鳥山ハ、府下ヲ離ル、一里餘ナルモ、亦公  
 園ノ地トス、一堆ノ芝山ニ翠松紅櫻相交リテ、春時ノ觀、更  
 ニ美ナリ、石神井川西ヨリ來リ、山麓ヲ環リテ、豐嶋川ニ入  
 ル、其瀧野川ト呼ブ處ハ、兩岸ノ楓林、秋後ノ紅葉、亦來リ賞  
 スベシ、川ノ北岸ニ、王子神社アリ、○龜戸神社ハ、府東ノ勝  
 地ニシテ、其近傍ハ、梅園數莊アレドモ、卧龍梅最有名タリ、  
 ○府ノ内外ハ、遊覽ノ地、頗多キモ、向嶋ノ風景、最美ナルニ  
 若カズ、隅田川ノ東岸ハ、三圍社ヨリ、木母寺ニ至リ、長堤一  
 里、是ヲ向嶋ト呼ビ、橋場今戸ト、河流ヲ夾ミテ、相對ス、堤上

ニ、櫻桃柳ノ三樹ヲ植ウ、故ニ春秋ノ風光ヨリ、納涼觀雲、共  
 ニ其境ニ適ヒ、前ニ隅田ノ清流ヲ帶ビテ、西ニ富士峯、北ニ  
 ハ筑波山ヲ望ミ、一年四時ノ景、皆此地ニ集ル、是ヲ東京第  
 一ノ行樂境トナス、

西京

西京ハ、京都ヲ定名トナシテ、平安ヲ正稱トナス、東京遷都  
 ノ時ヨリ、相對シテ、西京ト呼ブ、山城國愛宕郡ニアリ、桓武  
 帝延曆十二年、始テ山背葛野ノ地ニ新都ヲ造營シ、明年詔  
 シテ、國名ノ文字ヲ改メ、且新京ヲ平安城ト名ケラレタリ、  
 其制度ハ、中央ノ正北ニ、大内裏ヲ建テ、二官八省ヲ置キ、  
 十二ノ城門ヲ開キテ、朱雀大路ヲ、正南ニ通ズ、其東西ヲ左



京右京トナシ、共ニ九條ニ分チテ、東西ノ隅ヲ、京極ト云フ、右京ハ葛野郡ニシテ、左京ハ、愛宕郡ニ屬セリ、其大路ヲ、兩郡ノ經界トナシ、周圍ニ、外郭ヲ環ラシ、正南ニ羅城門ヲ建、以同帝ヨリ、七十一世一千零七十四年間ノ皇京ナレドモ、中世以來、兵亂屢起リテ、南北朝以後ハ、常ニ兵馬ノ場トナリシカバ、右京ハ、早ク既ニ郊墟トナリテ、一條ニ條ノ間、僅ニ數坊ヲ存シテ、西ノ京ト呼ブ、其左京ハ、八條九條ヲ失フモ、南北ハ、一條ヨリ七條ニ至ルニ里、東ハ寺町通ヲ踰エテ、鴨川ノ東ニ亘リ、西ハ千本通ニ至ル、寺町ハ京極ニシテ千本ヲ朱雀大路トス、其間一里、即現今ノ京都ナリ、戸數六萬ニシテ、二十五萬ノ人口アリ、三條通ヲ以テ上京下京ノ兩

區二分ツ、

皇宮ハ、一條ノ隅ニ在リ、北緯三十五度零一分ニシテ、西經四度零一分トス、永祿十二年、再修セシ後ノ規模ナレドモ、禁裏御所ト稱シテ、紫宸殿、清凉殿等、其製造尚延曆ノ舊規ヲ見ルベシ、周郭ヲ築地ヲ呼ビテ、九門ヲ設ク、其東ノ三門ハ、寺町通ト向ヒ、西ノ四門ハ、烏丸通ニ向フ、南門ヲ堺町トシ、北門ヲ今出川トス、築地内ハ、宮家及公卿ノ殿宅アリシモ、遷都ノ後、大率東京ニ移住セシニ因リ、宅趾ヲ開キテ、悉遊苑トナセリ、○二條城モ、亦永祿中ノ築造ニシテ、城背ハ千本通ニ接シ、正門ハ、東ニ向ヒテ、堀川ニ臨ミ、宮内省ノ支廳ヲ置ケリ、堀川ハ、上流ヲ若狹川ト云ヒ、一條戻橋ヨリ、溝



渠トナリテ南ハ九條ニ通ズ○二條城ノ北ハ聚樂西陣ト  
 呼ビ其西ハ即西ノ京ナリ千本通ノ左右ハ大内裏ノ舊墟  
 ニシテ天曆元年菅原道真ノ靈ヲ右近衛馬場ニ祀リテ天  
 滿天神ト稱セシ者ヲ北野神社トナス  
 京中ノ市坊ハ古昔ノ制度ヲ存シテ道路正直ナリ三條通  
 四條通ヲ莊整ナル街路トナス南北ハ室町烏丸堀川通等  
 ニシテ寺町通最繁華ナリ三條四條ノ間ハ誓願寺蛸藥師  
 錦天神四條道場等ノ地内ニ揚弓土弓ノ射的場及音曲歌  
 舞ノ演戲場アリ是ヲ新京極ト稱ス抑佛寺ノ多キ一ハ三  
 府ノ第一ニシテ數百ノ寺院京ノ内外ニ並ビテ堂塔皆莊  
 嚴ヲ極ム京中ハ一條ニ相國寺アリ東山ノ南禪建仁東福

ノ三寺及嵯峨ノ天龍寺ヲ并セテ五山ト稱ス五條ノ本國  
 寺六條ノ本願寺相並ビテ堀川ニ臨ム東本願寺モ亦六條  
 ニアリテ烏丸通ニ向フ其西南ハ九條ニ護國寺アリ世ニ  
 東寺ト云フ其門外ノ四塚ハ羅城門ノ舊跡ニシテ千本通  
 ノ最南ナリ是ヨリ淀城ニ至ル一路ヲ鳥羽街道ト呼ビテ  
 大阪ノ支路トス○瀛車休停車場ハ七條ニ在リ鐵道ヲ西ニ  
 通ジテ大坂及神戸港ニ至ル二十里又東ハ近江ノ湖岸ナ  
 ル大津ニ通ズル一四里ナリ  
 全都ノ地勢ハ平坦數里ニ亘ルモ西山北山及東山ノ連峯  
 三面相圍メリ鴨川ハ北ヨリ來リテ街市ノ間ヲ流ル河西  
 ヲ洛中ト唱ヘ河東ヲ洛東又洛外ト呼ブ其流二條ニ至リ



巨堰ヲ西岸ニ設ケテ、支流ヲ分ツ者ヲ高瀬川ト云フ、慶長中ノ開疏ニシテ、長渠ヲ伏見ニ達セシメテ、全都ノ運輸ヲ淀川ニ通ゼリ、鴨川ハ、河幅頗廣クシテ、其水極テ清冷ナリ、然レ河中ハ砂礫相連リテ、數條ニ分流ス、御幸橋ヲ上流ノ荒神口ニ架ケ、中流以下ハ、三條四條五條ノ三大橋ヲ架ク、三條大橋ハ、諸方里程ノ基トスル所ニシテ、正東ノ大路ヲ粟田口ト云ヒ、日岡逢坂ヲ歷テ、大津ニ至ル三里、是ヲ東北三道ノ門口トナス、又橋東ヨリ、直ニ南ニ亘ル者ヲ大和大路トス、常ニ繩手ト呼ビ、伏見街道ニ里半ニシテ、伏見ニ到リ、南ハ奈良、西ハ大坂ニ至ルベシ、○白川ハ、如意岳ニ出デ、東ヨリ來リ、南禪寺ノ前ヲ流レテ、南ニ環リ、兩大路ニ、石

橋ヲ架ク、粟田ヲ白川橋ト云ヒ、繩手ヲ大和橋ト云フ、四條ノ北ニテ、遂ニ鴨川ニ注ギ入ル、四條大橋ハ、明治七年四月、鐵橋新ニ成リ、其長四十八間、最美麗ヲ極ム、三大橋ノ間ハ、兩岸ノ樓臺、皆清流ニ臨ミテ相對ス、四條橋ノ東西、最盛ナリ、橋東ヲ祇園町ト呼ビテ、大和大路ト十字街ヲナス、其東隅ニ八坂神社アリ、社西ヨリ大和橋ノ左右ニ亘リテ、劇場酒樓等相列レリ、連山一列、其上ニ屏立スル者ヲ東山三十六峯ト云フ、如意岳ヨリ、南ニ亘リテ、粟田山、花頂山、圓山、靈山、音羽山、阿彌陀峯、稻荷山等、相列リ、山勢明美ニシテ、峻嶮ナラズ、是故ニ山水ノ清秀ナルヲハ、三府中ノ第一等トス、花頂山ニ將軍塚アリ、阿彌陀峯ニ豐國神社アリ、連山ノ麓



ハ、知恩院、長樂寺、高臺寺、清水堂、大佛殿、三十三間堂、泉涌寺、東福寺、稻荷社等ノ巨寺大社アリ、真葛原、鳥邊野等、其際ニ連レリ、○如意岳ノ麓ハ、粟田ノ北ニシテ、洛外ノ郊野ナレドモ、鹿谷、黒谷、神樂岡、聖護院、森等、相並ビテ、吉田社、銀閣寺及真如堂、永觀堂アリ、此山麓ノ諸地ハ、南北ニ亘リテ、東山ト云フ、都人遊覽ノ處ニシテ、四時ノ景皆賞愛スベシ、而テ、四條ノ納涼、最繁盛ナリト云フ、  
兩京ノ産ハ、皆製造ノ品物ニシテ、東京ハ、清美ヲ賞シ、西京ハ華麗ヲ貴ム、象牙、鼈甲、時繪、韋革ノ細工ヨリ、袋物、烟管、團扇、錦繪ノ類ハ、東京ノ名産ニシテ、江戸紫ノ色ハ、他國又其比ナシ、近來ハ、各種ノ器械ヲ置キテ、外國製ノ品物ヲ模造

セリ、西京ハ、西陣ノ織物ヲ第一トス、錦綾、統縮、緬羽、二重、天鷲絨、及唐織、金襴、緞子、縐子等、其製造スルヲ、既ニ久シケレバ、京織ノ名、諸國ノ貴重セル所タリ、染物ハ、紅染ヲ最良トシ、模様ハ、友仙染ト呼ビテ、紅紫、黃綠、皆鮮明ナレバ、亦世ノ賞美スル所ニシテ、京染又鴨川染ノ稱アリ、燒物ハ、道ハ六兵衛等ノ名工、皆清水及五條坂ニ住スレバ、清水燒ト呼ビテ、青花、赤錦ノ各種ヲ作レリ、粟田燒モ亦別種ノ陶器タリ、其他ハ、繡物、塗物、及打紐、組絲、扇子、色紙、光紅、白粉、針、香水、薰油、及金銀銅錫ノ諸器ハ、皆古來ノ製造ニシテ、其名最高シ、殖物ハ、壬生ノ水菜、又絲菜ト呼ビ、他國ニテハ、京菜ト唱フ、聖護院ノ蘿蔔、稻荷山ノ松茸ハ、都人ノ最自慢スル所ナリ、







山ハ、高ク西隅ニ立チテ、丹波ニ接シ、高雄山其麓ニ峙チ、楨尾、拇尾ト相竝ビテ、清瀧川ヲ帶ブ、嵐山、老坂等、其南ヨリ、國境ニ亘リテ、山崎ノ天王山ニ盡ク、是ヲ西山ト稱ス、北山ハ、鞍馬山頗高ク、岩屋、貴舟ノ諸山、其西ニ竝列シテ、棧敷岳其隅ニ聳ユ、北山ノ陰ハ、丹波近江ニ夾レ、山谷幽深ニシテ、大悲山最峻險ナリ、比叡山ハ、東隅ニ立チテ、都富士ノ稱アリ、其頂ヲ近江ノ界トス、如意岳其脈ヲ承ケテ、一帶ノ連山ヲ南ニ列ヌル者ハ、即東山ニシテ、伏見ノ桃山ニ接シ、其東陰ヲ山科郷トナス、醍醐、牛尾ノ諸山、又其東ニ連リテ、近江ノ界ハ、即逢坂山ナリ、○國ノ南方ハ、栗子山、鷲峯山等、並ビ列リ、大和伊賀ニ接シテ、笠置山アリ、河内ノ境ニ洞峠アリ、抑

此國ノ舊名ハ、山背ナリシガ、桓武帝平安遷都ノ時、山河自然ニ城ヲナスヲ以テ、國名ヲ今字ニ改メラレタリ、加茂川ハ、鞍馬岩屋ノ兩川、相合ヒテ、上下加茂ノ社前ヲ流レ、糺杜ニ至リテ、比叡山ヨリ來ル高野川ニ會シ、南ニ流レテ、京都ヲ過ギ、常ニ鴨川ト呼ビ、鳥羽ニ至リテ、桂川ニ入ル、桂川ハ、上流ヲ大堰川ト云フ、丹波ヨリ來リテ、其流急駿ナルモ、常ニ行舟ノ利アリ、清瀧川ヲ弁セテ、嵐山ノ麓ヲ南ニ流ル、一、三里、遂ニ宇治川ニ會ス、源ヨリ五十餘里ノ長流ナリ、宇治川ハ、近江ノ琵琶湖ヨリ出デ、西ニ流ル、一、五里、川ノ左右ハ、山水幽清ニシテ、宇治橋平等院喜撰岳、橘小嶋等ノ名勝アリ、且地味茶ニ適ヒテ、其製造スル所ハ、全國

改正日本地誌要略 卷之一 山城



中ノ最上品ト稱ス、水流ハ更ニ下リテ、豊後橋ノ下ヨリ、支流ヲ分チ、中書嶋ヲ抱キテ、伏見ヲ過ギ、再相合ヒテ、淀小橋ニ至ル、橋下ハ桂川會流ノ處ニシテ、又淀大橋ヲ、木津川ノ河口トス、淀城ハ其兩橋ヲ、左右ニ受ケテ、河ノ南岸ニ臨メリ、○木津川ハ、山城川ヲ正稱トス、伊賀川、東ヨリ來リテ、明神大瀧トナリ、又同國ノ名張川ト相會シテ、笠置山ノ麓ヲ流レ、木津ニ至リテ、舟運アリ、是ヲ大和街道ノ渡津トナス、川流ハ、西北ニ轉ジテ、淀ニ會ス、其流十三里、三大川相會スレバ、河水淀ム、故ニ淀ノ稱アリ、下流ハ、更ニ一大河トナリテ、西ニ流レ、攝津河内ノ間ニ入ル、即淀川ナリ、天王山ハ、男山ト兩岸相對シテ、國境ヲ限ル、男山ニ石清水神社アリ、故

ニ地名ヲハ幡ト云ヒ、其後山ハ洞峠ト相接セリ、○國中ノ平地ハ、大率河岸ニ沿ヒタル處ニシテ、桂川、鴨川ノ間、最平坦ナリ、即桓武帝ノ左右京ヲ建ラレシ處ニテ、其右京ノ舊地ハ、京都ノ西ヨリ、嵯峨、梅津ニ亘リ、北ハ舟岡山、蓮臺野、衣笠山、廣澤池等ノ勝地、又、御室、太秦、及金閣、清涼等持、天龍、大覺等ノ諸大寺アリ、中ニモ、西隅ナル嵐山ノ櫻花、高雄ノ紅葉ハ、殊ニ美景ニシテ、春秋ニハ、都下ノ遊人、多ク來リテ、其風光ヲ賞スト云フ、

伏見ハ、宇治川ノ下流ニ沿ヒテ、其北岸ニ臨メル小都會ナリ、人口ニ萬餘、京都ヨリ高瀬川ノ運輸ヲ受ケテ、淀川ノ通船、常ニ大坂ニ往返ス、其水程十里、且豊後橋ヲ大和ノ官道



トナシ、玉水、木津ヲ歴テ、奈良ニ至ル八里、東北ハ山科ヲ過  
ギテ、大津ニ直路四里ヲ通ゼリ、此地ハ、文祿中、豊臣太閤ノ  
居城アリシ處ニテ、其跡今尚桃山ニ存セリ、河ノ南岸ヲ向  
嶋嶺嶋ト云ヒ、又巨椋沼アリ、周回五里、俗ニ大池ト呼ブ、亦  
太閤ノ掘リ開キテ、宇治川ノ水害ヲ防ギシ處ナリ、

大和 十五郡

神武帝東征ノ始ニ青山四周ト云ヒシ國ニシテ、遂ニ皇宮  
ヲ此國ノ橿原ニ置セラレタリ、畿内中ノ大國ニシテ、南方  
ヲ吉野山トナシ、西ハ葛城ニ上信貴生駒等ノ山脈相連リ  
テ、河内ノ境ニ亘リ、東ハ龍門山高取山多武峯及卷向三諸  
春日ノ連山並列シテ、其陰ヲ宇陀郡トス、中央ノ地ハ平坦

數里ニシテ、畝傍山耳梨山天香山、其間ニ立テバ、三山ノ稱  
アルモ、共ニ田間ノ小岡ナルノミ、  
吉野ハ國ノ南半ニ亘ル大郡ニシテ、三面共ニ紀伊ニ圍レ、  
全郡皆山ナリ、其前峯ヲ金峯山トス、大峯其上ニ聳エテ、山  
上岳ト呼ブ、群山ノ主岳ニシテ、稻村岳大日岳等、吉野十二  
峯ノ稱アリ、釋迦岳最高峻ナリ、其東ハ大臺原ニテ、紀伊伊  
勢ニ跨レバ、三國岳ト云フ、深山中ノ高原ニシテ、南中北ノ  
三原ニ分レ、水流モ亦三方ニ分レ流ル、故ニ又巴淵ノ稱ア  
リ、北山川ハ南ニ流ル、一十里ニシテ、紀伊ニ入ル、其東流  
スル者ハ、伊勢ノ宮川トナリ、其西ニ下リテ、吉野山ノ麓ヲ  
流ル、者ハ、吉野川ニシテ、丹生川ヲ合セテ、紀川トナリ、其



流三十里ニ及ベリ、○吉野山ハ、金峯ノ麓ヨリ、河岸ノ際ヲ呼ブ者ニシテ、滿山皆櫻樹ナレバ、世ニ一目千本ノ稱アリ、此地ハ、南朝三帝、五十七年ノ行宮アリシ處ニシテ、後醍醐帝ノ山陵及吉水神社如意輪堂等アリ、又村上義光義隆父子戰死ノ跡尚存セリ、其西南ノ谷際ニ、十津川アリ、源ヲ山上岳ニ發シテ、天川ト云フ、河岸ヲ夾ム村里ハ、自山間ノ別境ニテ、殿野村ハ、護良親王ノ潛匿セシ山里ナレバ、村民尚南朝ノ遺臣ト稱セリ、水流ハ、屈曲シテ南ニ下ル、二十餘里、大峯川ト呼ビテ、紀伊ノ熊野川トナル、宇陀モ亦山間ノ一郡ニシテ、山邊ト相並ビテ、國ノ東隅ニ居リ、屏風雌雄貞平三畝ノ諸岳相峙チテ、伊賀伊勢ト相接

セリ、其南ハ國見高見三國ノ諸山、國境ヲ限リテ、大臺原ニ連ル、東川西川相集リテ、萩原川トナリ、遂ニ東ニ流レテ、伊賀ニ入ル、宇陀川ト呼ビテ、名張川ノ一源ナリ、山邊ノ東北ハ、山城ニ接シテ、名張川ノ下流ニ月瀬ノ梅林アリ、一國ノ川流ハ、吉野及宇陀山邊ノ三郡ノ外ハ、皆中央ノ平野ニ會流シテ、大和川トナリ、西ニ流レテ、河内ニ入ル、長谷川ヲ其正源トナス、初瀬山ヨリ流レ來リテ、多武三輪兩山ノ際ヲ出ツレバ、布留川奈良川富小川龍田川ハ、北ヨリ入リ、飛鳥川重坂川葛城川ハ、南ヨリ來リ、相合ヒテ、始テ舟運アリ、奈良ハ、又平城ト云フ、平野ノ北隅ニシテ、既ニ山城ノ界ニ



接セリ、春日若草、三笠ノ三山、其東ニ並立シ、佐保川西北ヲ環リ流レテ、遂ニ南ニ赴ク、即奈良川ナリ、春日社及東大寺興福寺等アリ、大佛殿ハ、聖武帝ノ鑄造セシ金銅佛像ヲ安置ス、其傍ニ正倉院アリテ、亦同帝ノ遺物ヲ藏シ、一千八百年前ノ服飾器具ヲ存セリ、此地ハ、元明帝始テ帝都ヲ定メ、左右京ヲ建テ、九條大路ヲ置レシヨリ、七世八十四年ノ皇居ニシテ、聖武孝謙ノ兩帝、最佛敎ヲ尊崇シテ、諸大寺ヲ建立セリ、桓武帝遷都ノ後ハ、舊都トナリテ、今ハ僅ニ左京ノ東隅ヲ存スルモ、人口ニ萬、二條通三條通等アリテ、尚南都ト稱セリ、其右京ノ舊趾ハ、西ノ京ト呼ビテ、西大寺、藥師寺等ノ古寺アリ、其九條ノ地ハ、郡山ト云ヒ、大和、大納言秀

長ノ嘗テ居城セシ處ニシテ、今尚一萬餘ノ人口アリ、抑檀原宮ノ後ハ、歷世ノ皇居、其趾ヲ此國ニ存スル者、四十七、故ニ山陵モ亦多ク、畝傍山ノ神武陵ハ、造營新ニ成リテ、其制最廣壯ナリ、神社ハ三輪、大和石上、龍田等、皆二千年前ノ古社ニテ、多武峯ノ藤原鎌足ノ廟ハ、談山神社ト稱ス、長谷ニ觀音堂アリ、龍田ニ法隆寺アリ、其他月瀨ノ梅、吉野ノ櫻、龍田ノ紅葉等、其名勝計フルニ遑アラズ、諸國ノ人、常ニ來リテ、名所舊趾ヲ遊覽スル者、甚多シ、呼ビテ大和巡ト云フ、

河内 十六郡

金剛山ハ、即大和ノ葛城山ニシテ、高ク東南隅ニ聳エタリ、



山腹ヲ楠正成ガ固守セシ千早城跡トス。此山ノ左右ハ山脈相分レテ國ノ東境南境ニ繞リ亘レリ。其大和ニ往來スル者ハ金剛ニ上兩山ノ際ヲ平石峠竹内峠トシ信貴山ノ北ヲ十三峠立石峠トス。生駒山ノ南ヲ暗峠ト云ヒ北ヲ岩舟峠ト云フ。而テ其北端ハ洞峠ナリ。山路共ニ險峻ニシテ只大和川ノ北岸ニ沿フ一路ノミ。近來修路ノ功成リテ車馬ヲ通スベシ。是ヲ龜瀨越ト云フ。正南ハ紀伊ニ接シテ亦紀伊見峠藏王峠九重峠等ノ險坂アリ。其西隅ノ岩涌光龍天野ノ諸山ハ和泉ノ槇尾山ト相接セリ。○國內ハ中央ヨリ頗平坦ニシテ上太子富田林等ノ諸邑アリ。北ハ淀川ヲ夾ミテ攝津ト相對シ。河岸ノ要津ヲ牧方トス。西モ亦同國

及和泉ニ連リテ平野直ニ内海ノ涯ニ亘レリ。大和川ハ二上信貴兩山ノ間ヨリ來リ石川ト合ヒテ國ノ中央ヲ貫キ西ニ流ル。下五里狹山池ノ末流ヲ弁セテ遂ニ攝津和泉ノ境ヨリ内海ニ注グ。源ヨリ十三里中流以下ハ漸運漕ノ便アリ。此河道ハ元祿中ノ開疏ナレバ新大和川ト呼ブ。東條川ハ金剛山ヨリ出テ西條川ハ紀伊見九重及岩涌光龍ノ諸山ニ發スル者相集レリ。其兩條相合ヒテ北ニ流ル。即石川ナリ。○長瀬玉串ノ二川ハ大和川ノ分流ニシテ岩舟峠ヨリ來ル寢屋川ト互ニ平野ノ間ヲ環流シ相合ヒテ一河トナリ。大坂城ノ北溝トナリテ淀川ニ入ル。即大和川ノ舊道ナレバ古大和川ノ稱アリ。○狹山池ハ天



野山ノ麓ニアリテ、山中ノ溪流、悉注ギ入ル、崇神帝ノ時、此地水少クシテ、農業ニ妨アルニ因リ、詔シテ、此池ヲ作ラシム、凡二千年ノ久シキ、今尚其遺澤ニ賴ルト云フ、  
和泉 四郡

畿内中最小ナル國ニシテ、上世ハ、河内ニ屬シ、茅渟ト呼ビテ、離宮アリシ地ナリ、孝謙帝始テ建テ、一國トナス、西ハ淡路嶋ト、内海ヲ抱ク、北ハ攝津ニ包マレ、南ハ苦嶋海峡ヲ限リ、其間十五里、東西七八里、古ハ茅渟海ト云ヒ、今ハ和泉灘ト呼ブ、其海岸ハ、佐野松原、高師濱等、平沙行松、北ニ連リテ住吉浦ニ亘レバ、風景頗明美ノ處ナリ、川ノ谷ニ六箇、槇尾鉢峯、牛籠葛城神於犬鳴飯森ノ諸山ハ、東南ニ連リテ、

河内紀伊ノ境ヲ限リ、山間ヨリ流レ出ヅル水流ハ、石津大津津田、近木、岡田、勇里等ノ諸川アレドモ、平時ハ、水少ク、霖雨ノ後ニ至リテ、溪水ノ流路トナルノミ、  
堺區ハ、大和川ノ河口ニ沿ヒテ、攝津ノ界ニ跨レバ、此名アリ、大和橋ヲ大坂ノ通路トシテ、相距ル三里、南ハ紀州街道ヲ通ジ、岸和田信達ヲ歷テ、山中越ヨリ、和歌山ニ至ル十五里、此港ハ、永祿中ヨリ、外國ノ商舶、常ニ來泊シテ、互ニ物品ヲ交易セシモ、慶長中ニ至リテ、其渡來ヲ禁止セラレタリ、  
富商舊家、尚存シテ、人口四萬、街市ハ、大小路ヲ東西ニ貫キテ、南莊北莊ニ分チ、海岸ヲ戎嶋ト云ヒテ、碇泊ノ處トナス、  
開口神社、及妙國寺、南宗寺等アリ、土人ハ、鐵製ノ器具ヲ名



巴上日本地誌要略 卷之一

産トナシ、兵庫港ト海上十里、運漕常ニ盛ナリト云フ、

攝津 十二郡

淀川ハ、畿内中ノ大河ナリ、其本流ハ、近江ノ湖口ヨリ、安治川口ニ至ル、其流二十里ニ足ラザレドモ、近畿七國ノ水相集ル、故ニ河幅甚廣クシテ、水流最緩ナリ、行舟ノ上下スル者、晝夜絶エズシテ、運輸極テ盛ナリ、山城ヨリ來リテ、河内ノ境ヲ限ル、六里、江口ニ至リテ、分ル、川ヲ、神崎ト云ヒ、西流五里ニシテ、直ニ尼崎ニ注グ、本流ハ、西南ニ流レテ又分流スル者ヲ、中津川トナス、古ノ長柄川ニシテ、末ハ南北傳法ノ兩川トナル、本流ハ、尚南ニ環リ、櫻宮川崎ノ間ヨリ、西ニ轉ジテ、古大和川ヲ合セ、大坂ヲ貫キテ、安治、木津ノ兩

川トナリ、各内海ニ入ル、此數川ノ海口ハ、即古ノ難波津ニシテ、數萬ノ商船、常ニ碇泊シテ、帆檣林ノ如ク、出入織ルガ如シ、安治川口、最盛ナリ、海口ノ天保山ニ燈臺、礮臺ノ建置アリ、貞享中、河村隨見安治、此川ヲ創開シテ、水利ヲ通ジタレバ、其名ヲ用キテ、安治川ト呼ブ、其後再疏セシ時、此山ヲ築キタレバ、年號ヲ用キルト云フ、○神崎川以南ハ、東成、西成、住吉ノ三郡ニシテ、古ハ百濟郡アリシカバ、江南四郡ト云フ、西ハ難波津、住吉浦相連リテ、内海ニ臨ム、住吉神社ハ、神功皇后ノ時、創建セシ古社ニシテ、社南ハ、大和橋ヲ隔テ、堺區ト相接セリ、東ハ阿部野、猪飼野等、地勢平坦ニシテ、百濟野ハ、古郡ノ舊稱ヲ存セリ、其隅ノ一邑ヲ平野ト云ヒ



テ河内ノ境ト相接ス、百濟川其傍ヨリ北ニ流レテ大坂城  
 後ヲ繞ル、今ハ平野川ト呼ビテ、古大和川ニ入ル、  
 此國ハ、大和ニ次グ大國ニシテ、淀川以北ハ、丹波ノ境ニ至  
 ル十餘里、神峯勝尾妙見箕面等ノ諸山、相重リテ、平野ナシ、  
 河岸ハ、山崎ヲ以テ山城ニ界シ、高槻芥川茨木吹田ノ諸邑、  
 相並ビテ、瀛車ノ鐵道ニ當レリ、中山寺多田院及箕面瀧石  
 積瀧等ノ諸勝ハ、山谷ノ際ニ連リ、丹波ノ境ハ、殊ニ高峻ニ  
 シテ、劍尾山天王峠等アリ、此山脈ハ、即西ニ走リテ、山陰山  
 陽兩道ノ中間ニ亘ル者トス、其山谷ヨリ出ヅル一庫川多  
 田川、相合ヒテ、南ニ流レ、池田伊丹ノ間ヲ過グ、故ニ池田川  
 ト云フ、兩邑ハ酒造ノ地ニシテ、最名釀ノ稱アリ、川流ハ分

レテ、兩派トナリ、東ヲ猪名川ト云ヒ、西ヲ藻川ト云フ、其二  
 神崎川ニ入ル、

尼崎ハ、神寄川ノ海口ニ臨ミテ、大坂ヲ距ル三里、西宮ニ至  
 ル二里、西宮ハ、中國街道ノ驛路ニシテ、京都大坂兩府ノ要  
 口タリ、兩邑以西ノ海濱ハ、和田岬須磨浦等、相連ル十里、即  
 和泉灘ノ北ヲ限ル者ニシテ、其海上ヲ灘目ト云フ、五百崎  
 大石脇濱生田ノ諸邑ハ、其海濱ニ列リテ、亦多ク酒ヲ製釀  
 スレバ、諸國ニ送致シテ、灘酒ト呼ブ、

武庫山御影山摩耶山再度山等、一帶ノ山脈、其上ニ並列シ  
 テ、北陰ヲ有馬トス、而テ連山ノ西端ハ、鐵柵峯鉢伏山等、相  
 連ビテ、播磨ノ神出山ニ連レリ、摩耶山ハ、元弘中、赤松圓心



據守セシ城趾ニシテ、其麓ニ布引瀧アリ、下流ヲ生田川  
ト云フ、此連山ノ溪谷ヨリ出ヅル川流ハ、津戸、蘆屋、御影、大  
石、刈藻、及湊川等アレドモ、平時ハ水ナクシテ、皆一條ノ沙  
礫ノミ、且流路ハ、大率高キ堤上ニ亘レバ、神戸ノ鐵道、其河  
腹ニ洞門ヲ穿チテ、瀛車ノ通路ヲ築ケリ、○須磨浦ハ、播磨  
ノ明石浦ニ亘リ、淡路嶋ト相對シテ、白沙、青松、相連ル一  
里、古ヨリ觀月ノ名所ト稱シ、且鶴越一谷等、壽永中源平ノ  
古戰場タリ、

有馬ハ、山間ノ一郡ニシテ、湯山ニ温泉アリ、舒明、孝德兩帝、  
及白河法皇モ、行幸アリシ處ニテ、浴舎數十、春夏殊ニ盛ナ  
リ、三田川、波豆川、有馬川、各郡中ノ水ヲ集メテ、相會シ、生瀨  
川トナリテ、武庫山ノ東麓ヲ繞リ、南ニ流レテ、尼崎西宮ノ  
間ニ注グ、是ヲ武庫川トナス

神戸區ハ、五港ノ一ニシテ、慶應二年、始テ此港ヲ開キ、定メ  
テ、外國ノ互市場トナス、東ハ生田川ヲ限リ、西ハ湊川ヲ夾  
ミテ、兵庫ト街市相連リ、人口五萬アリ、兵庫ハ、武庫港ト稱  
シテ、古ヨリ有名ノ良泊ナレバ、應保中、平清盛ガ、經嶋ヲ築  
キテ、舟泊ノ利ヲ謀リシ事アリ、和田岬、其西ヨリ出デ、大  
灣ヲ抱ク、岬端ニ石堡燈臺アリ、大坂ハ、運輸ニ便ニシテ、神  
戸ハ、碇泊ニ宜シ、兩地相輔ケテ、繁華ヲナスト云フ、湊川神  
社ハ、楠正成ノ墳墓ニ就キテ、社壇ヲ造營セリ、其西ナル福  
原六、亦清盛ノ安徳帝ヲ擁シテ、皇居ヲ遷セシ都趾ナリ、



大坂ハ、三府ノ一ニシテ、中國西國ノ要津ニ當リ、北國ノ運漕モ、亦大率此地ニ來レリ、故ニ四方ノ產物、悉集リ、百貨融通シテ、商業最繁盛ナリ、東成西成ノ兩郡ニ跨リテ、人口ハ四十萬、全國第二ノ大都會ニシテ、東西南北ノ四區ニ分ル、○淀川ノ本流ヲ大川ト呼ビ、天神天滿難波ノ三大橋ヲ架ク、長各百間餘、天滿橋下ハ、古大和川ノ合流スル處ニシテ、難波橋ヨリ中嶋ヲ抱キテ、兩派トナル、故ニ此二橋ハ分チテ兩架トナス、其兩派ハ、南ヲ土佐堀ト云ヒ、北ヲ堂嶋川ト云フ、其再相會スル處ハ、即安治木津兩川ノ分流スル處ニシテ、江子嶋ニ沿ヒテ、南ニ流ル、者ヲ木津川トシ、九條嶋ニ沿ヒテ、西ニ流ル、者ヲ安治川トス、東横堀西横堀ハ、其

二大川ノ河水ヲ、南ニ引キテ、街市ノ間ニ兩溝ヲ通ズル者ナリ、又長堀道頓堀ヲ西ニ通ジ、其水相會シテ、木津川ニ入ル、兩横堀ノ間ハ府下ノ中央ニシテ、長堀以北ヲ、船場ト云ヒ、以南ヲ嶋内ト呼ブ、道路正直ニシテ、堺筋心齋橋筋ヲ繁華ナル通衢トナス、東横堀ニ、高麗橋ヲ架ク、府城ノ正面ニ當リテ鐵橋ノ製ハ、我國ノ最初タリ、其他日本橋心齋橋及四橋等、橋梁ノ數、全府中ニ百ニ近ク、且釣橋磁石橋等ノ奇巧アリ、

大川以北ハ、天滿天神ノ大社アレバ、地名ヲ天滿ト總稱セリ、東ハ川崎ニ造幣局ヲ置キ、金銀銅貨ノ鑄造場、頗廣大ナリ、場南ヨリ大川ニ架クル一橋ヲ川崎橋ト云フ、西ハ梅田



三、停車館ヲ設ケテ、鐵道ヲ西京及神戸ニ通セリ、  
 江子嶋ニ、大坂府廳ヲ置キテ、築造新ニ成ル、九條嶋ヲ外國  
 人居留ノ處ト定メ、松嶋其南ニ接シテ遊園ノ設アリ、○道  
 頓堀ノ兩岸ヨリ、難波新地ニ亘リテ、戲場酒樓等、軒ヲ列ヌ  
 レバ、總テ府南遊覽ノ地ト稱セリ、  
 長岡一帶相連リテ、北ハ府城ノ前面ヨリ、南ニ亘ル者ヲ、東  
 成、西成ノ郡界トス、其岡上ノ街市ヲ上町ト總稱ス、南ニ高  
 津生魂ノ諸社アリ、南隅ノ茶臼山ハ、荒陵ト云ヒテ、四天王  
 寺ノ山號タリ、此寺ハ、聖德太子ノ建立セシ舊寺ニシテ、千  
 餘年ノ古蹟タリ、○本府ハ、古ヨリ難波津ト稱スレバ、津國  
 ノ稱アリ、又其字ヲ轉ジテ、浪華ヲ通名トス、仁德帝ノ都趾

ニシテ、且外蕃來貢ノ舟泊ナレバ、天武帝ノ時、京師ニ準ジ  
 テ、攝津職ヲ置キシト云フ、今ノ城郭ハ、天正中、豐臣秀吉ノ  
 築造セシ所ニテ、西門ヲ大手トシ、東南ヲ玉造口トシ、北門  
 ノ京橋ハ、即古大和川ニ架クル所タリ、此城ハ、高壁深地ニ  
 シテ、規模廣大ナリシガ、慶長中、城陷リテ、僅ニ本丸ヲ存ス、  
 其城樓モ亦近年兵火ニ逢ヒテ、空シク灰燼トナレリ、今新  
 ニ鎮臺本營ヲ城内ニ置ケリ、  
 產物ハ、山城ノ茶、攝津ノ酒ヲ最上品トシ、大和綿、河内木綿、  
 又其次タリ、池田炭、天王寺蕪、三田燒、有馬細工、及檜筵、藤筵  
 等ハ、津國ノ良産ニシテ、道明寺糶ハ、河内ノ名物ナリ、堺浦  
 ハ、鐵砲、庖丁ノ類ヨリ、金紗、段、繒、紋、羽、織、真、田、紐、等アリ、南都



ハ奈良晒奈良漬奈良人形等ニシテ墨玉亦此地ヲ名品ト  
ス吉野紙吉野葛吉野漆等ハ善良ノ産物ニテ山中ハ銅及  
水晶辰沙ヲ出シ又藥種木材ニ富メリ木津川ノ炭酸泉ハ  
近來ノ發見ニシテ御影石白川石ハ採切スルノ年既ニ久  
シケレバ全國一般花崗石ノ定稱ヲ御影石ト呼ベリ淀川  
ノ鯉吉野川ノ鮎ハ共ニ鮮美ニシテ内海ハ鯛鱧ヲ賞シ神  
戸ノ女牛殊ニ精肉ノ名アリ大坂ハ諸國ノ産相聚レバ土  
産却テ少ク僅ニ籐細工鯨細工烟管烟袋一閑張及薄雪昆  
布等ノ數種アルノミ

改正日本地誌要略卷之一 終

每冊定價八錢

明治十一年六月十九日 原版々權免許  
明治十二年三月廿二日 分版御届  
明治十五年十二月七日 改正版權免許  
明治十九年五月三十日 出版納本

原 版 主  
兼 著 述 人

東京府平民

大 槻 修 二



出 版 人

大阪府平民

柳 原 喜 兵 衛



出 版 人

大阪府平民

三 木 佐 助



出 版 人

大阪府平民

岡 島 眞 七



府下東區北久寶寺町四丁目四拾四番地



